

第 6 次塩竈市長期総合計画

序論・基本構想（素案）



※赤字：1月22日開催の長総審議会での意見を踏まえ修正した箇所
※青字：庁内各部会からの意見を踏まえ修正した箇所

令和3年5月

<目次>

I 序論	4
1 計画策定の目的	5
1) 計画策定の趣旨.....	5
2) 計画の位置づけと役割.....	5
2 計画の構成	6
1) 基本構想.....	6
2) 基本計画.....	6
3) 実施計画.....	6
3 本市の特性	7
1) 人口特性.....	7
2) 地理的特性.....	8
3) 産業特性.....	9
4 主な時代の潮流	10
1) 人口減少・少子高齢化社会の深刻化.....	10
2) 地方創生の推進.....	10
3) 情報化・デジタル化の進展.....	10
4) 地球環境問題の深刻化.....	11
5) 新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響と変化.....	11
6) S D G s（持続可能な開発目標）の取組推進.....	11
5 まちづくりの課題	12
1) 人口減少・超高齢社会進展への対応.....	12
2) 暮らしの豊かさや幸せを実感できるまちの魅力度の向上.....	12
3) 地域の個性を十分に活用した産業振興.....	12
4) 新たな危機への対応.....	13
6 まちづくりの視点	13
7 まちづくりの手法	13
1) 多様な担い手による協働・共創のまちづくりの推進.....	13
2) 社会情勢の変化にも柔軟に対応できるまちづくりの推進.....	13

II	基本構想	14
1	計画期間.....	15
2	目指す都市像（案）.....	15
3	まちづくりの基本理念.....	16
4	わたしたちが目指す10年後のまちのすがた ～8つの塩竈物語～.....	17
1)	子どもたちの笑い声があふれるまち.....	19
2)	みんなが生き生きしているまち.....	21
3)	快適で住み続けたいと思うまち.....	23
4)	活気があり、誇りをもてる仕事がたくさんあるまち.....	25
5)	何度でも訪れたいと思うまち.....	27
6)	日常に彩りがあるまち.....	29
7)	みんなが主役になれるまち.....	31
8)	自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま.....	33
5	将来人口.....	35
III	資料編	36
1	今後のまちづくりに向けた市民・事業者の意向.....	37
1)	長期総合計画審議会.....	37
2)	市民まちづくりワークショップ.....	38
3)	市民アンケート結果の概要.....	39
4)	企業アンケート結果の概要.....	44
5)	事業者ヒアリング.....	46
2	人口の動向.....	47
1)	人口の動向分析.....	47
2)	社人研による将来人口推計.....	56
3.	産業の動向.....	58
1)	産業別就業人口の推移.....	58
2)	民営事業所数と従業者数の推移.....	58
3)	産業大分類別売上高（企業単位）の構成比.....	59
4)	産業大分類別従業者数（事業所単位）と事業所数.....	60
5)	産業大分類別付加価値額（事業所単位）.....	60
6)	産業・雇用創造チャート.....	61
7)	本市の産業特性について.....	62
8)	地域経済循環図からみる経済循環の状況.....	66
4	本市が抱える重点課題の解決に向けた取組.....	67
1)	重点課題について.....	67
2)	重点課題ごとの検討内容について.....	67

I 序論

1. 計画策定の目的
2. 計画の構成
3. 本市の特性
4. 主な時代の潮流
5. まちづくりの課題
6. まちづくりの視点
7. まちづくりの手法

Ⅰ 計画策定の目的

1) 計画策定の趣旨

本市では、これまで平成 23 年度を初年度とした「第 5 次長期総合計画」と東日本大震災からの早期の復旧・復興を目指す「塩竈市震災復興計画」との両輪でまちづくりを進めてきました。

第 5 次長期総合計画は令和 2 年度までの 10 年間の計画でしたが、世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の拡大により本計画の策定にも影響が生じたため、計画期間を 1 年間延長しました。

前計画の策定から 11 年が経過し、本市を取り巻く社会情勢は、本格的な人口減少・少子高齢化社会への突入、東日本大震災などの大規模災害や新型コロナウイルス感染症などの新たな危機への不安の高まり、経済・社会のグローバル化や技術革新の急速な進展など、あらゆる面で大きな変革期を迎えています。

このような時代の潮流に的確に対応し、本市が将来に向けて持続可能なまちづくりを進めていくためには、人口減少や少子高齢化の進行、多様な生き方や暮らし方の広がりをはじめとした様々な課題に対し、行政だけでなく市民や塩竈と関わりのある方々と共に考え、行動していくことが求められます。

「未来の塩竈の姿」を共に描き、魅力ある多彩な個性をみんなの手でつなぎ合わせ、持続可能なまちを創り上げていくことを目指し、「第 6 次長期総合計画」を策定するものです。

2) 計画の位置づけと役割

本計画では、本市の目指す都市像と、それを実現するための基本的施策を総合的かつ体系的に示しています。今後 10 年間の市政運営の指針となるものであり、行政計画における最上位の計画となります。

同時に本計画は、将来のまちづくりの方向性を示すものであり、市はもとより市民・事業者など地域の多様な担い手が役割を分担し、共に目指すまちを創り上げていくための指針となります。

2 計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」で構成します。

1) 基本構想

基本構想は、社会情勢や地域特性、市民の声、本市が抱える課題等を踏まえつつ、これからの10年間で目指す都市像やまちづくりの基本理念を示すとともに、その実現に向けたまちづくりの方向性を定めるものです。

2) 基本計画

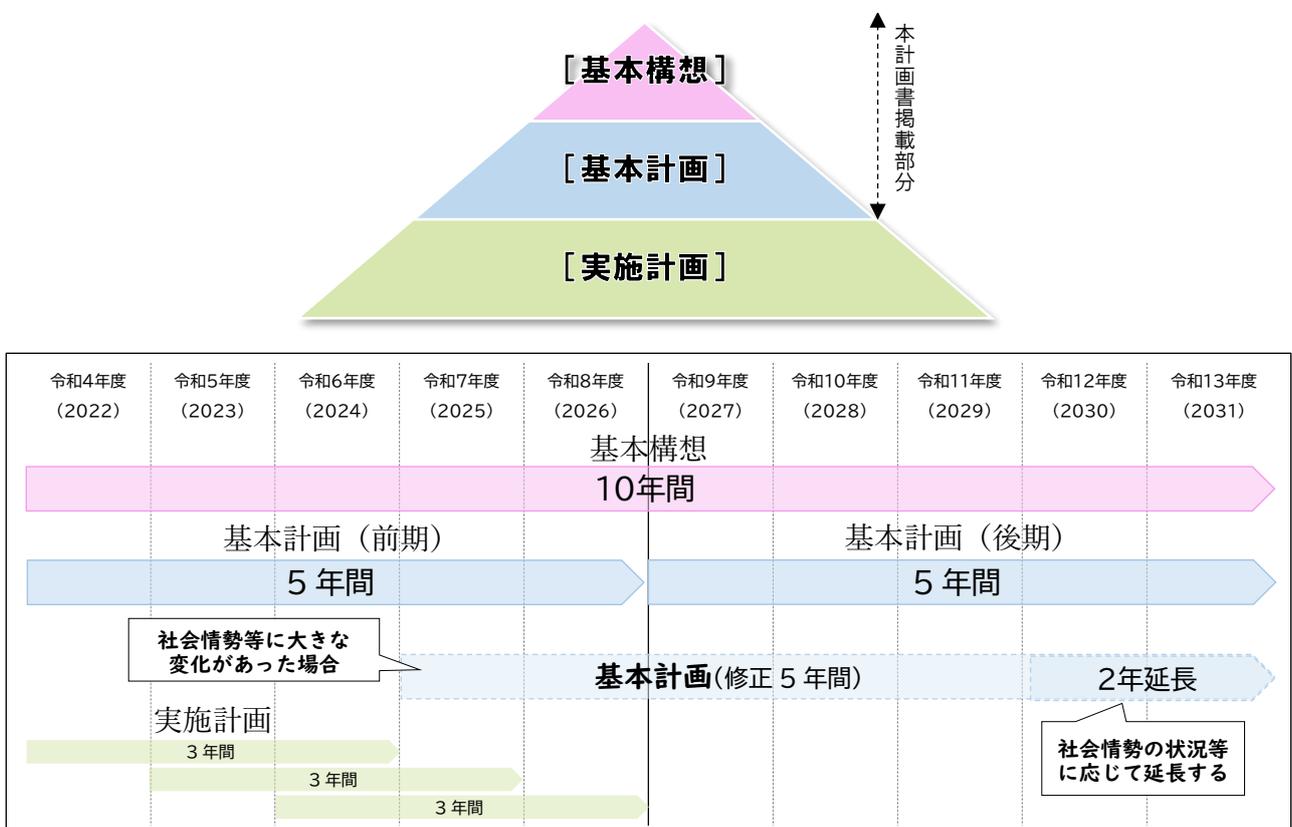
基本計画は、基本構想で定めた「目指すまちのすがた」の実現に向け、分野別の主要な施策を示すものであり、計画期間を前期5年・後期5年に分割し策定します。

なお、社会情勢等に大きな変化があった場合にも対応できるよう、施策などを見直した修正計画を策定することも想定しています。

3) 実施計画

実施計画は、基本計画で定めた施策を具体的な事業として実施していくための計画です。財政計画などの諸計画と連動させ、その実現性を高めます。期間は3か年で、毎年度必要な調整、見直しを行います。

図1 総合計画の構成・期間



3 本市の特性

1) 人口特性

我が国全体においては、平成20年を境に総人口の減少局面に入りましたが、本市ではそれ以前の平成7年に約6万4千人のピークを迎え、その後減少傾向に転じています。

古くから塩釜港を中心に栄えた本市では、急激に人口が集中し、昔からの市街地に加えて、限られた土地にいち早く住宅開発が行われてきましたが、その動きも終息しています。

そのことなどから、少子高齢化が他市よりも顕著に進み、自然減による人口減少に歯止めがかからない状況となっており、高齢単身者や高齢夫婦世帯の割合も高くなっています。

その一方で、社会動態については、定住促進に向けた様々な取組などにより、近年はほぼ均衡しています。

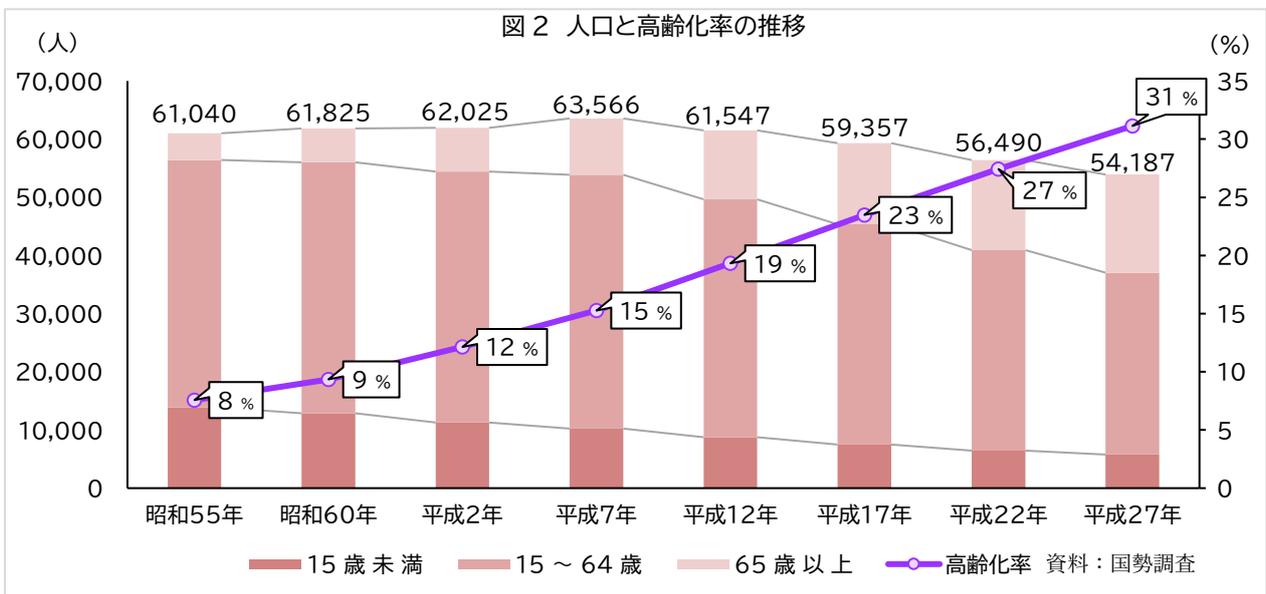
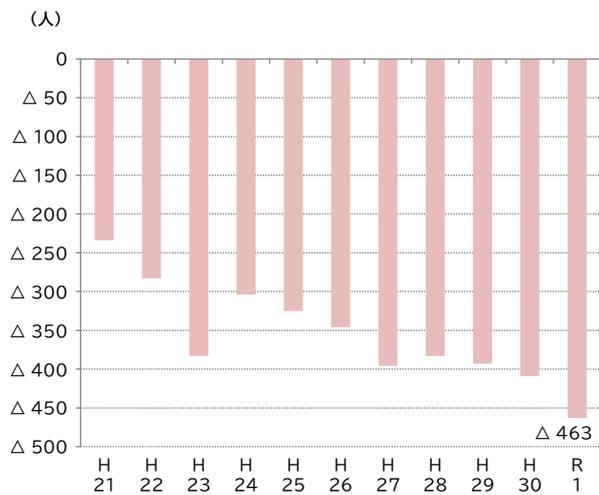
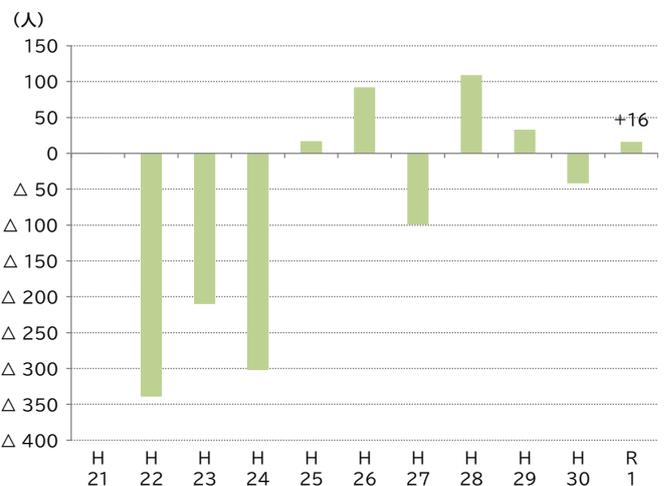


図3 自然増減の推移



自然増減=出生者数-死亡者数

図4 社会増減の推移



社会増減=転入者数-転出者数

資料：住民基本台帳

2) 地理的特性

本市は東北のほぼ中央部、仙台市の北東約 16 km に位置し、千賀ノ浦（塩釜湾）を囲むように位置します。市域面積は 17.37 km² で、そのうち可住地面積は 14.7 km² であり、周辺市部の中で最も小さい状況にあります。

一方、可住地面積当たりの人口密度は、3,681 人/km² であり、周辺市部の中で最も高い状況にあります。

図5 可住地面積比較

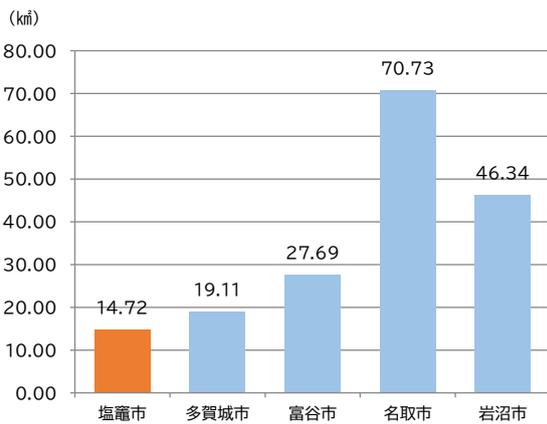
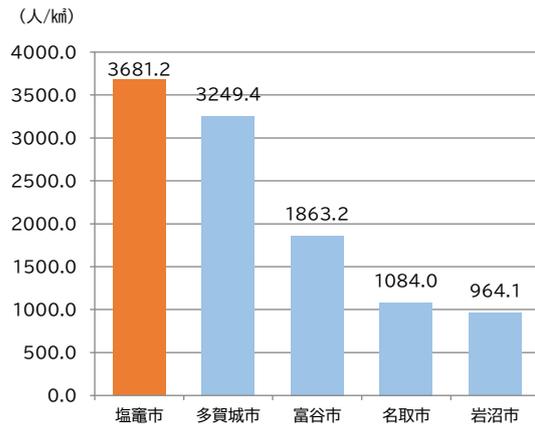


図6 可住地面積当たりの人口密度比較



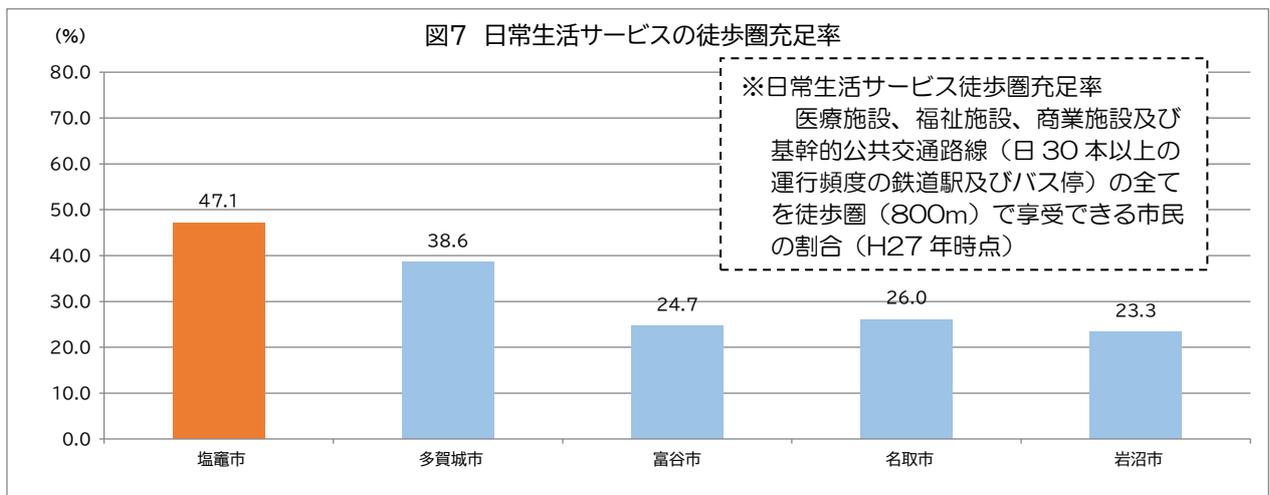
資料：統計でみる市区町村のすがた 2019

※仙台市を除く仙台都市圏市部との比較

日常生活サービス（医療施設、福祉施設、商業施設、公共交通）を徒歩圏で享受できる市民の割合は、周辺市部と比較して高い割合を示しています。

また、鉄道・バスからなる公共交通網は概ね全市をカバーしている上に、周辺市部の中では人口に対して効率の良い公共交通網となっているなど、コンパクトシティならではの地域特性が表れています。

図7 日常生活サービスの徒歩圏充足率



資料：国土数値情報等

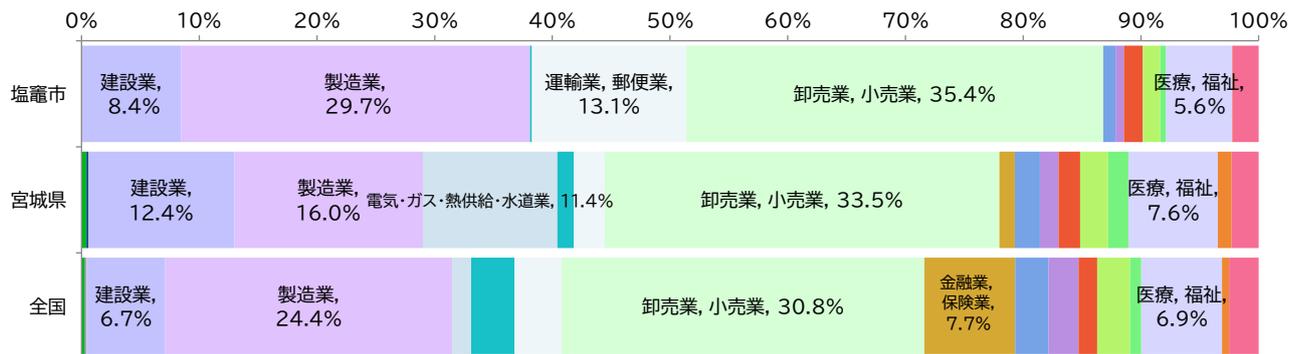
※仙台市を除く仙台都市圏市部との比較

3) 産業特性

千賀ノ浦（塩釜湾）周辺に発達した本市は、奈良・平安時代には国府多賀城の荷揚げ港として、江戸時代には鹽竈神社の門前町、仙台への物資陸揚げ港として栄え、明治以降は、東北本線が開通し、港湾都市・水産物の一大供給基地として発展してきました。

本市の産業の現況を見ると、「卸売業、小売業」、「製造業」、「運輸業、郵便業」の売上高が全国・宮城県と比較して高く、この3業種で本市産業の売上高の約8割近くを占めています。

図8 産業大分類別売上高(企業単位)の構成比【2016年】



<出典>地域経済分析システム (RESAS)

主な産業の内訳を見ると、製造業の製造品出荷額等では、本市の基幹産業である水産加工業を含む「食料品製造業」が最も高く、全国と比較した特化係数※も 8.35 とかなり高い値を示しています。また、小売業の年間商品販売額においては、「飲食料品小売業」が最も高く、特化係数も 2.99 と高い値を示しており、「食」に支えられている産業特性と言えます。

図9 製造品出荷額等と特化係数【2018年】

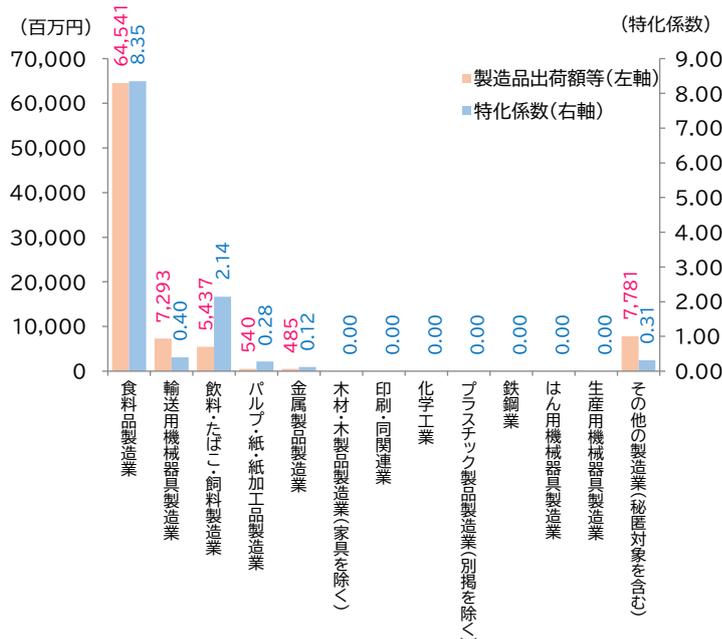
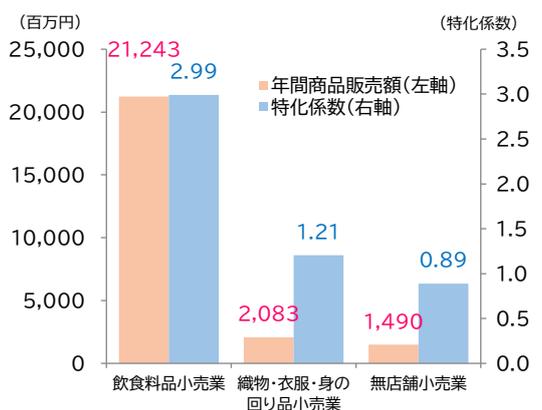


図10 年間商品販売額と特化係数【2016年】



<出典>地域経済分析システム (RESAS)

※ 「特化係数」：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。

4 主な時代の潮流

1) 人口減少・少子高齢化社会の深刻化

今後、人口減少と高齢化、少子化はますます進むことが見込まれ、社会保障費の増加や医療・介護サービス等の需要の急激な増大が懸念されています。

また、人口構造が変化することにより、財政圧迫や地域経済の衰退など経済面の影響とともに、高齢者の孤立や貧困、地域コミュニティの弱体化など、市民の暮らしへの影響は避けられず、地域社会全体の衰退を招く恐れがあります。

2) 地方創生の推進

平成 26 年 11 月に可決・成立した「まち・ひと・しごと創生法」の基本理念に基づいて、国が策定した「長期ビジョン」と「総合戦略」を踏まえながら、本市でも平成 28 年 3 月に「塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

また、国は、「関係人口の創出・拡大」や「SDGs を原動力とした地方創生」、「Society5.0 の実現に向けた技術の活用」などの新たな視点を盛り込んだ第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和元年 12 月 20 日に閣議決定しました。

このことを受け、本市では「総合戦略」を改訂するとともに計画期間を延長しており、第 6 次長期総合計画においても、地方版総合戦略として人口減少克服・地方創生という目的を明確にし、数値目標や重要業績評価指標（KPI）を設定するなど、必要な内容を備えて、統合する形で一体的に策定を行います。

3) 情報化・デジタル化の進展

[ICT（情報通信技術）](#)の飛躍的な進歩と機器の多様化が進み、インターネットやスマートフォンの普及、ソーシャルメディアの利用拡大などにより、市民生活や行政サービスは大きく変化するとともに、コミュニケーションの多様化が進行しています。

国を中心として、IoT（Internet of Things）の先端技術や人工知能（AI）、自動運転等の技術により、都市・地域の課題を解決する先進的な取組が推進されています。社会的な課題解決や生産性向上に向けて、これら新たな技術を積極的に取り入れていくことが求められています。

また、これまでの情報化・ICT 利活用は、既に確立された産業を前提に、あくまでもその産業の効率化や価値の向上を実現するものでしたが、最近、ICT が産業と一体化することでビジネスモデル自体を変革していくデジタル・トランスフォーメーション（DX）が注目されています。

4) 地球環境問題の深刻化

地球環境の悪化をもたらす温室効果ガスや環境汚染物質の増加に加え、特に近年、世界中で温暖化の影響と考えられる異常気象などの自然災害が多発しており、生物多様性の減退や水資源の枯渇化なども含め、地球規模の環境問題の深刻化は世界共通の課題となっています。

化石燃料エネルギーへの依存が地球温暖化の主な原因とされていますが、エネルギー自給率が低い日本でも再生可能エネルギーなどの他のエネルギーへの転換が急務となっています。

現在日本においても、環境負荷の軽減を目的とした取組や製品が普及し、環境問題への意識が高まっており、脱炭素社会を含めた循環型社会の形成、自然環境の保全・再生に向けた活動などの取組が進められています。

5) 新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響と変化

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に歯止めがかからず、これまで経験したことのない危機に直面して、国内でも生活や社会システムに大きな影響が生じ、日本経済は深刻な打撃を受けています。

感染拡大による医療体制の崩壊が危惧されているほか、人同士の接触や人・モノの移動の制限による日常生活の変化や地域活動への影響とともに、生産活動や物流・サービス消費などの経済活動が停滞することにより、所得・雇用面にも波及しています。

日常生活における「新しい生活様式」の実践やデジタルシフトの加速など、感染拡大の抑制と社会・経済活動の両立に向けて、大きな社会変革が求められており、今後とも公衆衛生上の新たな脅威への対応は大きな課題となっています。

6) SDGs (持続可能な開発目標) の取組推進

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標 (ゴール)・169のターゲットから構成されています。

国においては、2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制を整え、「SDGs実施指針」を決定しました。

現在、日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えています。地方自治体におけるSDGs達成へ向けた取組は、地域課題の解決に資するものであると同時に、地方創生を推進することも期待されることから、本計画においてもこれら17の目標を踏まえて、計画を推進していきます。

図11

SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴール



5 まちづくりの課題

1) 人口減少・超高齢社会進展への対応

わが国の人口は平成20年を境に人口減少局面に入りましたが、本市の人口は国に先行して平成7年をピークに減少に転じています。平成27年の国勢調査では高齢化率が31%と周辺市部を上回り、今後ますます高まっていくことが見込まれる本市においては、年少人口（0～14歳人口）と生産年齢人口（15～64歳人口）の比率の低下による人口構造の変化が顕著であり、若い世代の流出抑制と流入促進に向けて、子育て環境の充実や教育の質の向上に重点的に取り組む必要があります。

そして、担い手不足による地域活力の低下やまちづくり活動の停滞を解消し、多様なつながりによって、安心して子どもを産み育て、高齢になっても地域で暮らし続けられるよう、様々な世代が、地域社会で役割を担い、いつまでも健康でいきいきとした生活を送れる多世代共生社会の構築が求められています。

2) 豊かさや幸せを実感できる地域社会の構築とまちの魅力向上

人口減少・超高齢社会の進展により、社会は「成長」から「成熟」の時代へと大きな転換期を迎えています。

子どもの貧困をはじめとした生活困窮者の問題や、中高年の引きこもりを背景とした「8050問題」など、地域社会を取り巻く課題は多岐に渡っており、全ての人の幸せや自己実現の機会が失われることがないように、経済的な支援だけでなく、生活の質や精神的な豊かさの向上に向けた支援も求められています。

また、まちづくりに関する「市民アンケート」では、住みやすいとは思わないと回答した割合は41%であり、まずは、まちづくりの主役である「人」や「人」の繋がりを大切にしながら、市民が「住みつけたいくなる」まちを目指すことが重要となっています。そのためは、住みやすさに加えて、暮らしや働き方、社会とのつながりなどにおいて、多様な豊かさを生み出し、まちの魅力度を向上させる取組が求められています。

3) 地域の個性を十分に活用した産業振興

「成熟」の時代にあっては、産業振興においてもこれまでの発想や仕組みからの転換を図り、本市が培ってきた個性を生かし、関係性を拡大して大きな効果や新たな価値を生み出すことが求められます。そのためは、水産業・水産加工業をはじめとした各産業の個性や多様な資源を有機的につなげ、地域一体となったイノベーション※の創出を図る必要があります。

また、「企業アンケート」でみられた深刻な人材不足に対応するため、若者・女性・高齢者・外国人が活躍できる雇用環境を整備する必要があります。

※イノベーション：新たなものを創造し、変革を起こすことで経済や社会に価値を生み出す様

4) 新たな危機への対応

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、本市にも甚大な被害をあたえました。多くの尊い命が奪われ、浦戸地区や沿岸地区を中心に建物が被災するなど、市民生活に大きな不安と混乱をもたらしました。

また、2020年には新型コロナウイルス感染症が世界的な猛威を振るい、市民生活や地域経済に深刻な影響を与えたほか、人と人との距離の確保をはじめとした「新しい生活様式」の実践など、我々の日常生活を一変させました。

今後、想像もできない新たな危機に直面した場合においても、市民の命とくらしを守るため、過去の教訓を生かし、行政と市民が危機感を共有しながら、一体となって事態に立ち向かっていく必要があります。

6 まちづくりの視点

調和のとれた持続可能な社会の実現

本市のまちづくりにおける課題の解決を図るには、人口の分布や推移、まち並みの形成などの本市のまちづくりの歴史的な背景を重視しつつ、新たな発想や価値観の転換により、豊かな暮らしにつながる、経済、社会、環境の調和、仕事と生活の調和、人や自然、歴史・文化の調和を志向することが必要です。

豊かな暮らしの価値観について、市民や地域が自ら考え、判断し、主体となって実現に取り組むことで、シビックプライド※のさらなる醸成を図りながら、個性が豊かで調和のとれた持続可能なまちを創造します。

(※シビックプライド：まちに対する市民の誇り、自分自身が関わってまちを良くしていこうとする思い)

7 まちづくりの手法

1) 多様な担い手による協働・共創のまちづくりの推進

ライフスタイルや価値観の多様化が進み、地域社会のニーズも高度化、複雑化しています。課題解決の可能性を高め、まちづくりの視点に掲げる「調和のとれた持続可能な社会」の実現を図るため、行政が担うべき分野はしっかりと役割を果たしつつ、市民や民間事業者などの活躍が期待できる分野については、行政のみならず多様な主体がそれぞれの役割を発揮し、つながりを深めながら「協働・共創によるまちづくり」を進めます。

2) 社会情勢の変化にも柔軟に対応できるまちづくりの推進

「調和のとれた持続可能な社会」の実現に向けて、未来を切り拓く人材の育成や近隣自治体との広域連携での地域課題の解決、近未来技術の積極的な活用を推進し、社会情勢の急速な変化や様々な危機に直面した場合にも柔軟に対応できるまちづくりを進めます。

Ⅱ 基本構想

1. 計画期間
2. 目指す都市像(案)
3. まちづくりの基本理念
4. わたしたちが目指す10年後のまちのすがた ～8つの塩竈物語～
5. 将来人口

－ 基本構想の策定にあたって －

塩竈の地名の由来にもなっている「塩」は、古くから人々の暮らしの必需品として重宝され、本市の歴史や文化を語るうえでも欠かせない存在です。

鹽竈神社には、塩づくりを伝えたとされる塩土老翁神が祀られております。また、その末社である御釜神社には、「よんく しんかま四口の神釜」がおさめられており、毎年、古代の製塩法を伝える「藻塩焼神事」が執り行われます。

近年、市内の有志の方々を中心に、途絶えていた塩づくりを復活させる取組が進められ、伝統的な製法を受け継ぐ「塩竈の藻塩」が誕生しました。

現在では「塩竈の藻塩」は、お寿司や水産加工品・お菓子など、本市の豊かな食文化に彩りを添える貴重な地域資源となっています。

このような取組が広がっていくことで、本市が持つ一つ一つの魅力が結晶となり、さらに光輝く大きな魅力として形づくられます。

持続可能な未来に向けて、この「塩づくり」のように、受け継がれてきた伝統を重んじながら、様々な個性をつなぎ合わせ、市民の皆さまに、愛着と誇りを持っていただけるまちづくりを進めていくという想いを込めて、この基本構想を策定しました。



1 計画期間

基本構想の計画期間は、令和4年度（2022年度）を初年度として、令和13年度（2031年度）を目標年度とします。

2 目指す都市像（案）

計画期間における本市の目指す都市像を、以下のとおり定めます。

目指す都市像については、アンケート結果のご意見等を踏まえ、より市民に伝わりやすく親しみを持てるものとするよう、冒頭のキャッチフレーズを検討し、これまでの案をサブタイトルとするものです。

～食と伝統と誇りの結晶 みなとまち塩竈～

これまで本市は、東日本大震災をはじめとした度重なる災害や新型コロナウイルス感染症に端を発した市民生活・経済への脅威などの幾多の困難を、市民の皆さまとともに乗り越えてまいりました。

今後ますます人口減少が進んでいく中、このまちを未来へつないでいくためには、「先人達の知恵」、「若者達の創造性」、「子ども達の夢」、「豊かな歴史・文化」、「美しい自然」、「誇りある産業」など、本市が持つあらゆる個性や魅力をつなぎ合わせたまちづくりに取り組まなければなりません。

このことから、それらが力強い結晶となって、美しい光を放ちつづけるまちとなるようお願い、古来より受け継がれた塩づくりにちなんで「食と伝統と誇りが結晶となる みなとまち塩竈」を目指す都市像に掲げます。

3 まちづくりの基本理念

目指す都市像の実現に向けて、次のとおり基本理念を定め、まちづくりに取り組みます。

今ある個性を大切にし、みんなでつなぎ合わせて、
新しい魅力を創り上げていく、
未来に続くまちづくり



※現段階でのラフスケッチです。

4 わたしたちが目指す10年後のまちのすがた ～8つの塩竈物語～

「食と伝統と誇りが結晶となる みなとまち塩竈」の実現に向け、「わたしたちが目指す10年後のまちのすがた」として、まちづくりの目標と方向性を定めます。

分野1
子ども **子どもたちの笑い声があふれるまち**
～健やかに育つ・育てる環境づくり～

分野2
福祉 **みんなが生き生きしているまち**
～健康で安心して暮らせる地域づくり～

分野3
生活 **快適に住み続けられるまち**
～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

分野4
産業 **活気があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち**
～活力に満ちた産業づくり～

分野5
交流 **何度でも訪れたいまち**
～観光交流による賑わいづくり～

分野6
文化 **日常に彩りがあるまち**
～生涯にわたって学びあえる風土づくり～

分野7
協働 **みんなが主役になれるまち**
～様々な個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～

分野8
浦戸諸島 **自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま**
～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～

8 つ の
塩 竈 物 語



1) 子どもたちの笑い声があふれるまち

(分野：子ども)



一時期は子どもの数がどんどん少なくなっているって聞いていたけど、最近は少しずつ増えてきているのかな。産む前から大きくなるまで、ずっと子育てを応援してくれるまちだから、最近もまた、小さな子のいる家族が近所に引っ越して来みたい。

学校では子どもたち同士での学び合いが広がっていて、明るくて元気な子どもたちが多くなったという話も聞こえてくる。日ごろから子どもとふれあう時間を大切にする家庭も増えてきて、元気にあいさつができる子や朝ごはんをちゃんと食べてくる子が多くなった。

地域の人も子どもと関わる機会が増えていて、自分の子どもや孫のように可愛がっているから、まちのあちこちで子どもたちの元気なあいさつや笑い声があふれるようになった。こういう環境が続くことで、ふるさとを大切に思う大人が増えていくんだろうなあ。

1 貧困をなくそう



2 炭酸をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を

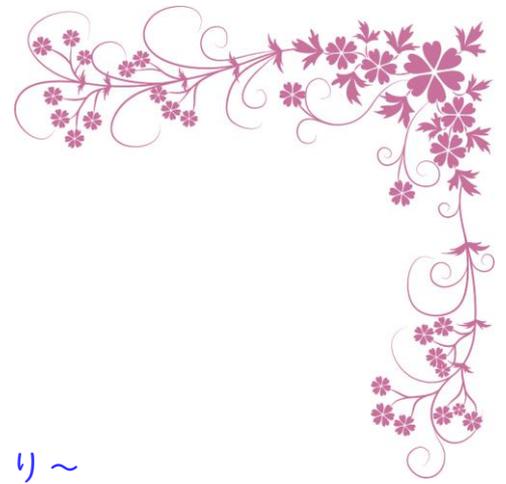


4 質の高い教育をみんなに



16 平和と公正をすべての人に





まちづくりの方向性

～健やかに育つ・育てる環境づくり～

施策の柱

① 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

- ◇ 安心して妊娠・出産・子育てができるよう、子育て世代包括支援センターが中心となって、関係機関がより緊密に連携し、子どもたち一人一人とその保護者に適切な支援が行き届くよう取り組みます。
- ◇ 働きながら安心して子育てができるよう、多様なニーズへの対応に向けた子育て支援サービスの充実と、企業と連携した子育てしやすい就労環境づくりに取り組みます。
- ◇ 個々の境遇や環境によって、健全な育成が損なわれることがないように、全ての子どもたちの生活、成長、学びを支援します。

② 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

- ◇ 児童生徒の個性を生かす学びや協同的な学びの充実により、子どもたちが「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要とする力」を育みます。
- ◇ 豊かな歴史文化とのふれあいや、広く社会・世界に目を向けた学びの推進により、子どもたちの「郷土を愛する心」や「将来、社会の発展を牽引する多様な力」を育みます。
- ◇ 情報通信技術の積極的な活用により、子どもたちの創造性や可能性を広げるとともに、安全・安心で快適な教育環境をつくります。

③ 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

- ◇ 子どもたちの健やかな成長に向けて、だれでも安心して過ごせる居場所づくりを充実させるなど、学校・家庭・地域が連携して子どもの育ちと子育てを支えます。
- ◇ 地域における子どもの安全確保に向けて、見守り体制の充実や環境整備などに地域と力を合わせて取り組みます。
- ◇ 基本的な生活習慣の定着や他人に対する思いやりの醸成に向けて、すべての教育の出発点である家庭教育を地域と連携して応援します。



2) みんなが生き生きしているまち

(分野：福祉)



長年勤めた会社を退職して10年。仕事をしている時より忙しくて楽しくなるなんて思いもしなかったな。健康にも気をつけるようになって、ご近所さんとのウォーキングは習慣になっているし、日頃の食生活では、塩竈の食材を取り入れたバランスの良い食事を心がけている。そして、サークル活動やボランティア活動、アルバイトに孫のお世話、毎日が充実している。活動を通じて新しい友達も増えたと、いろいろ頼りにされるのはとても嬉しい。仲間がいて、生きがいや役割があると、いつまでも元気でいられる気がする。

それにこのまちには、病院の先生や民生委員さん、保健師さん、地域包括支援センターの皆さんなど、頼りになる方々がたくさんいる。

年も年だから、不安や悩みが無いわけではないけど、地域全体で見守られている安心感があるので、このまちでずっと健康で、いきいき楽しく暮らしていきたいと思う。

1 貧困をなくそう



2 気候をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を





まちづくりの方向性

～健康で安心して暮らせる地域づくり～

施策の柱

① 誰もが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

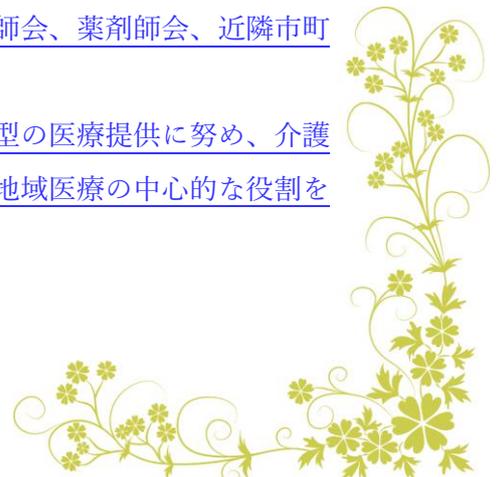
- ◇ 高齢者が住み慣れた場所でいきいきと過ごせるよう、健康で生きがいのある暮らしや、地域と協働した支え合いを充実させます。
- ◇ 障がいのある人も、自分らしくいきいきとして生きがいを持って暮らせるまち、障がいのある人もない人も、ともに安心して暮らせるまちをつくります。
- ◇ 生活困窮者の自立と社会参加を支援するため、相談体制の充実と関係機関との連携強化を図ります。

② 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出

- ◇ 子どもから高齢者までのすべての人が健やかに過ごせるよう、ライフステージに応じた健康づくりに取り組みます。
- ◇ 一人一人が、地域や学校・職場・家庭など、あらゆる場面で心の健康に関心を持ち、だれもが相談しやすい体制の充実につとめます。
- ◇ 地域資源を生かした食の楽しさを通じて、食育への関心を高め、「食から始まる健康づくり」を推進します。

③ 安心できる地域医療体制の充実

- ◇ 少子高齢化の急速な進展や新たな感染症の脅威など、保健・医療・介護分野を取り巻く環境が大きく変化している状況を踏まえ、行政や医療機関、介護施設等の連携によるネットワーク化を推進します。
- ◇ 休日・夜間の安定的な医療の提供に向けて、医師会や歯科医師会、薬剤師会、近隣市町等とのさらなる連携強化を図ります。
- ◇ 地域で唯一の公立病院である市立病院については、地域密着型の医療提供に努め、介護や保健分野との緊密な連携のもと、諸課題を整理しながら、地域医療の中心的な役割を果たします。



3) 快適に住み続けられるまち

(分野：生活)



塩竈って本当に住みやすいまちだと思う。豊かな自然が大切にされ、コンパクトでまちなかにはいろんな施設があるし、バリアフリーも進んでおり、みんなが快適に過ごすことができている。電車とバスの乗り継ぎもスムーズで、住んでいる人だけじゃなくて観光で来る友達を案内するのにも便利。車を運転しなくなった父も不自由なく出かけられるし、事故や事件の話もあまり聞かなくなったから、みんなが安心して暮らせるまちになってきた。

東日本大震災からもう20年だけど、町内の皆さんの防災意識はますます高まっているし、どんな災害があってもみんなで力を合わせて乗り越えていけるっていう安心感も芽生えてきた。

これからも、大好きな塩竈の風景を未来につなげていくために、自分にできることを進んでやっていこうと思う。

6 安全な水とトイレ
を世界中に



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう





まちづくりの方向性

～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

施策の柱

① 災害に対するレジリエンス(しなやかな強さ)を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり

- ◇ 東日本大震災での教訓を生かし、日頃から災害を「我が事」として捉えるなど、市民一人一人の防災・減災意識を高めるとともに、地域の災害リスクを踏まえた都市基盤の整備や防災体制の充実を図るなど、地域防災力の強化に努めます。
- ◇ 犯罪が起こりにくいまちづくりを実現するため、関係機関と連携・協力し、「意識づくり」、「地域づくり」、「環境づくり」に取り組みます。

② コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたい まち」の形成

- ◇ 「住んでいたい・住んでみたい まち」を目指し、コンパクトで利便性が高く、すぐれた景観を有する地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境整備に努めます。
- ◇ 市民にとって身近な存在である公園については、多世代での交流や健康づくりの拠点として、気軽に集える憩いの空間の創出に努めます。
- ◇ 安全で安心な生活基盤の確保に向けて、道路や上下水道については、施設等の長寿命化を計画的に進めるなど適切な維持管理に努めます。また、公共施設については、長期的な視点から、更新や統廃合、長寿命化を進めます。
- ◇ 恵まれた交通環境を生かし、駅の交通結節点としての機能強化や、各交通機関との連携強化に努めます。また、広域化の視点や新技術の活用の検討などにより公共交通体系のさらなる充実を図ります。

③ 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

- ◇ 自然との共生を目指し、市民・事業者・地域と連携を図りながら、自然環境の保全と活用に努め、みどりと海を守り育て、生かしていく取組を推進します。
- ◇ ごみの減量化と適正な処理、リサイクルの推進や再生可能エネルギーの利活用、温室効果ガスの排出抑制に努め、循環型社会の早期実現に向けた取組を促進します。



4) 活があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち

(分野：産業)



塩竈には、誇りをもって働いている人がたくさんいる。いろんな人たちがお互いに協力し合ったり競い合ったりして、まちにも活気があふれている。自慢の豊かな食文化にもますます磨きがかかって、「みやぎの台所」って自信を持って言えるまちになってきた。私もそんなまちを支える一人だって思うと、とても誇らしい。

最近では、バイエリアには、若い人たちが働きたくなる企業が進出しはじめていて、地元の人たちの働く場としてだけではなく、塩竈を巣立った子どもたちが戻ってくるきっかけにもなっている。

そして、まちのあちらこちらに個性的な新しいお店ができて、商店街には賑わいも増えてきた。うちの子どもも「いつかお父さんとお母さんのお店を継ぐんだ。」なんて言って、本当に頼もしくなってきた。

8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさを
守ろう





まちづくりの方向性

～活力に満ちた産業づくり～

施策の柱

① 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

- ◇ 多彩な食の地域資源を生かし、個々の魅力の磨き上げと食産業の連携強化により新たな魅力を創造する「食のまちづくり」を進め、食を通じたシビックプライドの醸成と産業全体の活力再生につなげます。
- ◇ 魚市場を拠点として生産・加工・流通において新たな価値を創造し、地域経済の活性化を図るとともに、担い手確保、魚食普及、高付加価値化などに取り組むことにより、水産品・水産加工品の流通拡大を目指します。

② 商工業者の持続的な経営安定や事業承継、新規創業への支援の充実による地域活力の向上

- ◇ 事業承継と創業支援のさらなる充実に向けて、相談体制などの強化に努めるとともに、本市の地域特性のさらなる磨き上げを行い、チャレンジしたくなるまちを目指します。
- ◇ 商工業者の経営安定化に向けて、商業関係団体や金融機関等との連携を強化し、地域経済の基盤強化に努めます。
- ◇ 市民から親しまれ、個店の魅力がつながる商店街づくりを支援します。
- ◇ ICT等を活用して環境整備を進め、本市の豊かな環境を生かしたりモータワークの受け皿づくりと拡充に取り組みます。

③ 海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

- ◇ 親水空間の活用など、海・みなとへの市民の愛着を深める取組とともに、物流拠点としての本市の港湾機能の特性を踏まえ、塩釜港区の利活用と環境整備を促進します。
- ◇ 本市の地域特性を生かし、若者も魅力を感じる企業誘致による雇用創出に努めるとともに、特有の地域課題の解決に向けた実証実験の場の提供など、新たな産業創出の“種”を大学や企業などと共に生み出します。



5) 何度でも訪れたいまち

(分野：交流)



塩竈は、コンパクトだけど一日たっぷり過ごしても時間が足りなくなる不思議なまち。「塩竈を案内して」と言われると、見せたい場所がたくさんあっていつも迷ってしまう。鹽竈神社やベイエリア、仲卸市場に浦戸諸島、美味しいお寿司とお酒、それにスイーツまで……。魅力は観光スポットや食べ物だけじゃなく、心からのおもてなしもその一つ。自信を持って「またおいで!」って言えるまちだと思う。

いろいろなところで塩竈のことが取り上げられていて、訪れてみたいまちになっているのもうなずける。

この前遊びに来た県外の友達には、オリジナルの「食のスペシャルコース」を案内したら、「またぜひ来たい!」と、すごく満足して帰っていった。今度来たら、また別な塩竈を見せてあげようかな。





まちづくりの方向性

～観光交流による賑わいづくり～

施策の柱

① 地域資源を最大限活用した観光メニューの創造

- ◇ 観光客の視点に立ち、「鹽竈神社」「門前町」「食」など、歴史・文化をはじめとした地域資源をつなぎ合わせたストーリー性があり、塩竈でしか味わえない魅力ある観光メニューの創出に努めます。
- ◇ 「訪れたい。」「また来たい。」と思われる観光メニューの創造に向けて、4つの観光拠点である「鹽竈神社と門前町地区」、「バイエリアとマリゲート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の魅力の磨き上げと拠点間の回遊性の向上に努め、観光消費の拡大を図ります。

② 戦略的な集客・誘客プロモーションによる交流人口の拡大

- ◇ 観光ブランドの確立に努め、多様化する情報発信手段を幅広く活用し、年代・性別・地域などターゲットを意識した戦略的なプロモーションに取り組むことにより、集客と誘客の拡大につなげます。

③ まち全体が一体となったおもてなし体制の充実・広域連携

- ◇ 市民・団体・企業・行政が一体となって「人づくり」「体制づくり」に取り組み、「笑顔でのおもてなし」の輪を広げるとともに、シビックプライドの醸成を図ります。
- ◇ 県や周辺市町との広域連携のほか、これまで交流を深めてきた全国の自治体とのつながりを強化することにより、発信力や知名度の向上などを通じて、交流人口の拡大に努めます。



6) 日常に彩りがあるまち

(分野：文化)



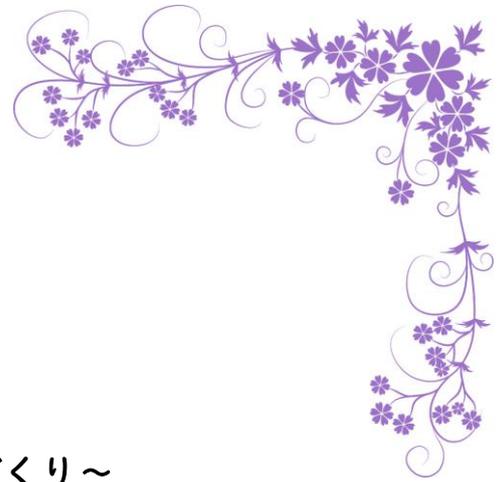
塩竈は絵になるまち。歴史ある建物やまち並みが、みんなの手で大切にされているし、きれいな海とたくさんの緑がある。

小学生の時、美術館で観た絵に感動して、絵が大好きになった。それから、塩竈の何気ない風景をたくさん描いている。このまちのいろんな一面を見て、あらためて塩竈はいくつもの物語が重なり合って築かれたまちなんだと実感している。

この前、神社で絵を描いていたら、おじいさんから声をかけられ、今まで知らなかった塩竈の歴史を聞くことができた。絵を描くことを通じて、まちのことを深く知ることができ、人とのつながりが生まれるきっかけにもなっている。

最近では、芸術やスポーツなどいろんな分野で活躍する人たちも増えてきて、ますます誇らしいまちになったし、私もその文化を引き継いでいく一人になりたいと思う。そしてそんな塩竈を未来につないでいきたい。





まちづくりの方向性

～生涯にわたって学びあえる風土づくり～

施策の柱

① 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実

- ◇ 先人達が築き、大切にしてきた塩竈の歴史や文化を市民共有の財産として守り、まちづくりや学びの資源として生かしていくとともに、次世代に継承することにより、塩竈に息づく歴史・文化の保存とシビックプライドの醸成を図ります。

② 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

- ◇ だれでも気軽に生涯学習や生涯スポーツに取り組めるよう、快適な環境の整備に努めるとともに、学習の成果を生かせる機会やスポーツに親しめる機会の充実に努めます。
- ◇ 生涯学習や生涯スポーツを通じて地域とのつながりや絆を深め、一人一人の生きがい創出や地域の活力向上を図ります。

③ 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

- ◇ 幅広い世代の市民が多様で良質な芸術文化に触れることのできる機会を提供し、創造性豊かな人材の育成を支援します。
- ◇ 競技スポーツの開催支援やアスリートとふれあう機会の充実などを通じて、スポーツで頑張る市民や団体を応援します。
- ◇ 芸術・文化・スポーツなど、多様な分野における市民主体の取組への支援を行い、新しい文化の創造や発信を促進します。



7) みんなが主役になれるまち

(分野：協働)



最近では、まちづくりに関わる人が前よりも増えてきたように感じる。

休日に駅前の花壇に花を植えてくれる近所の人たちや外国人の方に日本語を教えているボランティアの人たち。まち歩き調査をする大学生や公園の清掃に取り組んでいる企業の人たち。

塩竈に住む人、働いている人、関わりのある人たちが、持っている力を発揮しながら手を取り合ってまちづくりを進めている。

文化や価値観の違いを尊重し合い、お互いが協力し合うことで魅力的なまちになっていく。だからこそ、一人一人がまちの主役で、「人」を大切にこのまちを、みんなでもっと良くしていきたい。





まちづくりの方向性

～様々な個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～

施策の柱

① 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

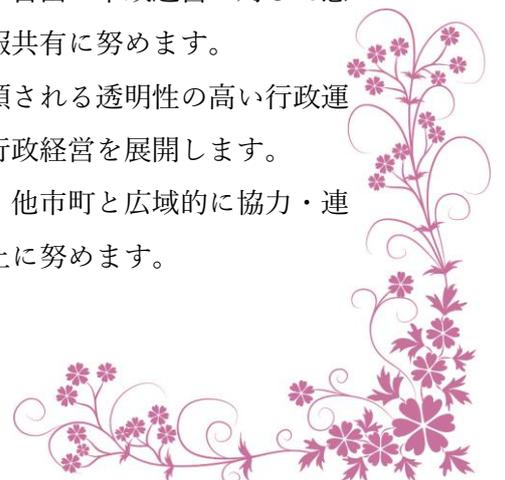
- ◇ 身近なまちづくり活動への理解を深め、自分でもできる、関わりたいと思える環境づくりに努めます。
- ◇ 市民活動団体との協働・連携のさらなる推進のため、まちづくりへの参画促進や市民活動団体間の連携強化に努めます。
- ◇ 地域課題の解決に向けて、地域コミュニティを支える町内会などとの連携を深めるとともに、相談・支援体制の充実や、気軽に集えて活動しやすい環境の整備に努めます。

② 大学や企業等との交流・連携・共創、多様化する社会への理解促進

- ◇ 「市民」、「行政」、「大学・企業等」との相互の交流や連携を深め、それぞれの幅広い知見から新たな価値を創出する「協働・共創によるまちづくり」を進めます。
- ◇ 男女共同参画や個人の多様性に関する学びの機会や啓発を充実し、誰でも等しく様々な場で活躍できる社会の実現を図ります。
- ◇ 外国人住民との地域交流活動に対する支援や海外との交流を通して、多文化共生社会への理解促進を図ります。

③ 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

- ◇ 市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくりを進めるため、様々な情報媒体を活用した効果的な情報発信を行うとともに、だれもが自由に市政運営に対して意見を述べる機会を積極的に設けることにより双方向の情報共有に努めます。
- ◇ 行財政改革の推進による安定的な財政運営と市民から信頼される透明性の高い行政運営により、市民の視点に立ったきめ細やかで持続可能な行政経営を展開します。
- ◇ 多様化・高度化する行政ニーズへの的確な対応に向けて、他市町と広域的に協力・連携した取組を進め、共通課題の解決と行政サービスの向上に努めます。



8) 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま

(分野：浦戸諸島)



船の中や通学路では、相変わらず子どもたちの元気な声が響いている。最近では、島内での福祉サービスも充実してきて、お年寄りも安心して住み続けられる島になってきたと思う。

そして何よりも、「島じかん」なんて呼ばれるくらい、ゆったりと心穏やかに生活できるから、とても贅沢なことだと思っている。

そんな癒しを求めて、浦戸には色々な人が訪れる。仕事をする人、遊びに来る人、そして新しく住み始める人。たくさん人が来ると、浦戸らしさがなくなるようで不安に思ったこともあったけど、みんなが島の自然や生活を気に入って大切にしてくれているのがわかるから、来てもらうのが楽しみだし、ほっとしている。

浦戸でとれる海産物や農産物、つくられている加工品が好評で、新たな商品の開発に向けても、島全体で盛り上がっている。

そういえば、この前友達に浦戸でとれたものを送ったら、「こんな美味しいものありがとう！」って言ってすごく喜んでくれた。当たり前と思っていたものが、実は大きな魅力になっているなんて・・・そんな浦戸暮らしを誇らしく思っている。





まちづくりの方向性

～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～

施策の柱

① 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

- ◇ 市営汽船は、島民の生活の足、児童生徒の学習室、地元産品の輸送手段、来訪者の非日常への移動装置などの様々な役割を担っており、離島振興に果たす意義を重視しながら、利便性の確保と経営基盤の安定化の両立を図っていきます。
- ◇ いつまでも安心して島に住み続けられるよう、医療機関や福祉事業所との連携を深め、安定的な医療・福祉サービスなどを受けられる体制の充実を図ります。
- ◇ 地域コミュニティを維持するため、移住を希望する人を受け入れられる環境を整えるとともに、浦戸小中学校における特色ある教育の充実に努めます。
- ◇ 先端技術の活用について検討を深め、楽しく豊かな生活を送れる島づくりを進めます。

② 浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興

- ◇ 浦戸の暮らしを支えてきた海産物や農産物の魅力をさらに高めるため、浦戸のブランド化を促進しながら、産品の6次産業化を拡大する取組を支援します。
- ◇ 浅海漁業と農業を浦戸の持続可能な生業とするため、浦戸産業の魅力を広く発信するとともに、1次産業従事者や関係機関との連携を深め、担い手の確保や育成に努めます。

③ 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

- ◇ 特別名勝に指定されている美しい海や島々の景観、人々に育まれてきた歴史や文化の保全と継承に努め、島ごとの個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動を推進します。
- ◇ 島の人々や民間事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えられる観光メニューを創出するとともに、受入体制を充実させ、交流人口の拡大に努めます。
- ◇ 浦戸が有する自然豊かな環境を生かして、教育旅行やワーケーションの場などに活用することができるよう、時代のニーズに沿った受入環境の整備を推進します。



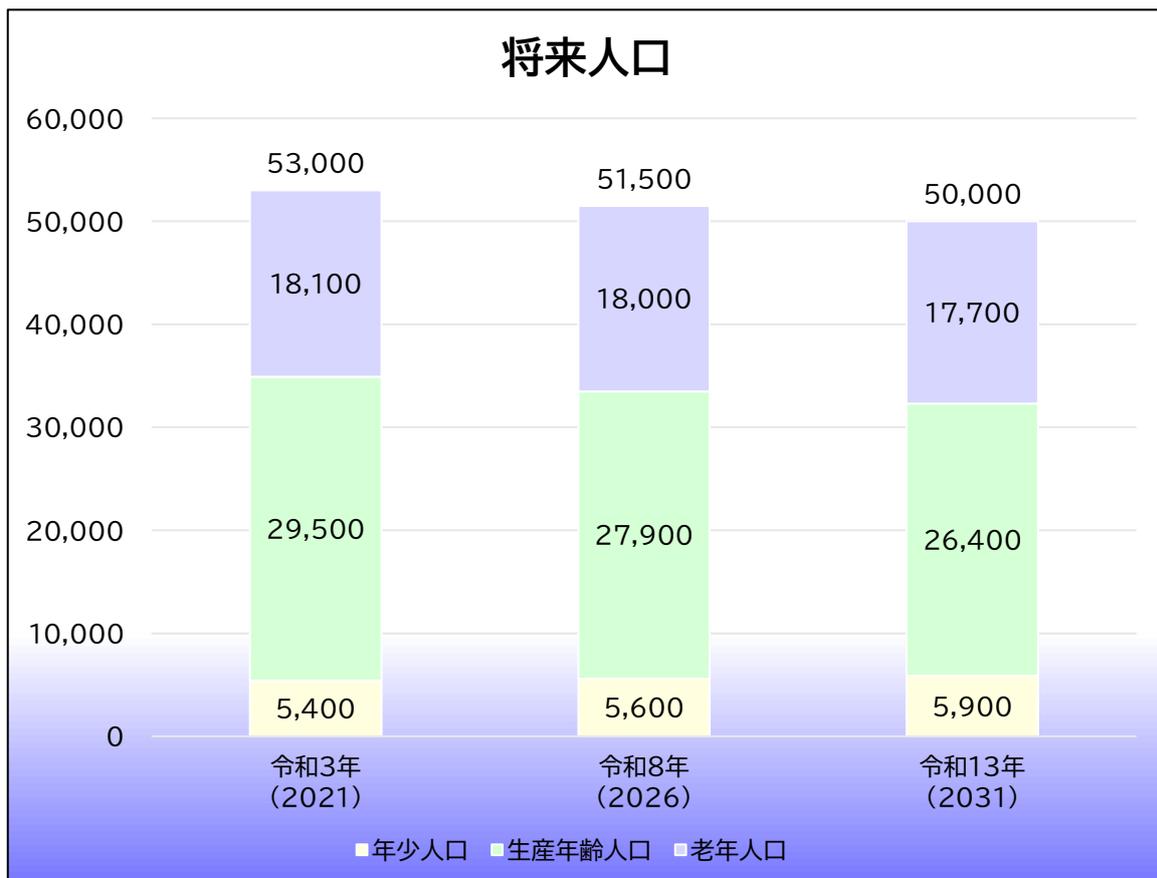
5 将来人口

第6次長期総合計画の目標年度である令和13年度の本市の将来人口を『50,000人』と設定します。

人口減少を克服し、少子高齢化の進行に歯止めをかけるため、子育て世帯の移住・定住の促進や子どもを産み育てやすい環境を整えることで、持続可能なまちを目指します。

令和13年 将来人口			
50,000人	内訳	年少人口	5,900人
		生産年齢人口	26,400人
		老年人口	17,700人

※住民基本台帳人口（12月末）を基準とします。



Ⅲ 資料編

1. 今後のまちづくりに向けた市民・事業者の意向
2. 人口の動向
3. 産業の動向
4. 本市が抱える重点課題の解決に向けた取組

Ⅰ 今後のまちづくりに向けた市民・事業者の意向

Ⅰ) 長期総合計画審議会

第3回長期総合計画審議会において今後のまちづくり等について意見をいただき、それらの意見を以下のとおり「塩竈の個性や大切にしたいもの」、「今後のまちづくりの方向性」として整理しました。

(1) 塩竈の個性や大切にしたいもの

個性1：食文化	・魚、かまぼこ、塩、海苔、牡蠣、寿司 ・寿司、酒・酒蔵、地元の飲食店
個性2：社・歴史	・奥州一ノ宮鹽竈神社 ・門前町、和洋折衷等の古い建造物
個性3：港町・浦戸	・海、港湾や漁港、市場 ・浦戸諸島の自然環境
個性4：コンパクト・交通	・坂が多いが、歩いて暮らせるコンパクトシティ ・100円バス等による公共交通のネットワーク
個性5：人・風景	・人と人とのつながり ・神社や門前町、浦戸諸島、水揚げ

(2) 今後のまちづくりの方向性

1 子育て	・切れ目のない子育て支援 ・安心して預けられる保育環境の整備
2 教育	・地域資源を生かした教育 ・学校教育と社会教育の連携、地域間や海外交流の充実
3 若者	・若者が戻ってきたいと思う環境整備、雇用の確保 ・若者が中心となったまちの魅力向上
4 福祉	・地域の見守りや支え合いの充実 ・高齢者や障がいのある方も理解し合える・働ける社会、健康産業の誘致
5 医療	・広域化の視点も含めた市立病院の在り方 ・市立病院の経営健全化
6 浦戸	・浦戸を「県民の島」に ・ステイステーションなどの有効活用 ・テレワーク環境の整備
7 住環境	・安全安心な道路整備、空き家の有効活用 ・歩きたくなるまち、公園の整備
8 コンパクトシティ	・コンパクトシティや坂を生かす、統一した景観づくり ・公共交通の充実、庁舎の分散解消
9 産業	・産業の柱・拠点づくり ・魚市場と仲卸市場の連携、食育の産業化、企業との連携
10 観光	・若者向けの観光コンテンツの開発 ・ウォーターフロントの活用、神社から門前町への回遊性の構築

2) 市民まちづくりワークショップ

市民の方々が暮らしやすいまちについて、「未来の100の暮らし」を考える全6回のワークショップを開催します。

回	開催日	テーマ
第1回	R2.10.24	住環境
第2回	R2.11.26	子育て・教育
第3回	R2.12.17	食・産業

回	開催日	テーマ
第4回	R3.1.14	福祉
第5回	R3.1.28	歴史・文化
第6回	R3.3.18	編集会議

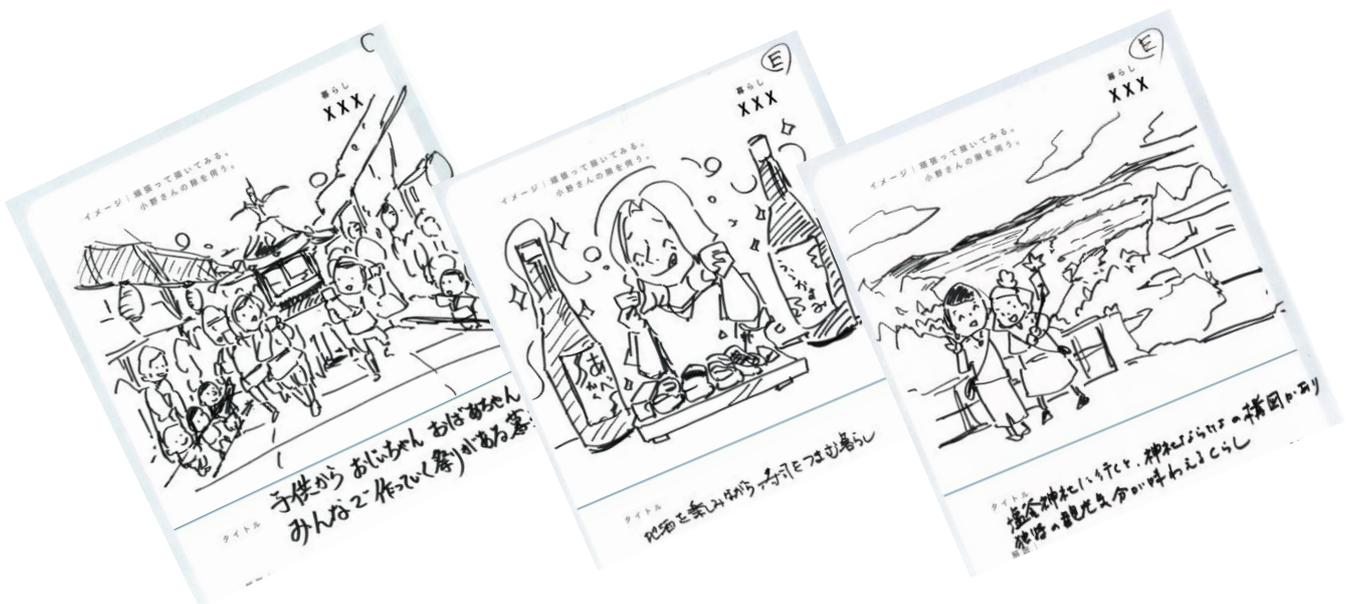
申込者数：37名

(1) 第1回ワークショップの様子

第1回目では、22名の参加者が「住環境 塩竈の好き・嫌い」をテーマにグループに分かれて話し合い、「塩竈での未来の暮らし」を提案していただきました。



参加された方々から様々な「未来の暮らし」を提案いただきました。また、イラストレーターの方が「未来の暮らし」のイラストをその場で描き、「暮らしのカード」を作成しました。



作成した「暮らしのカード」の一例

3) 市民アンケート結果の概要

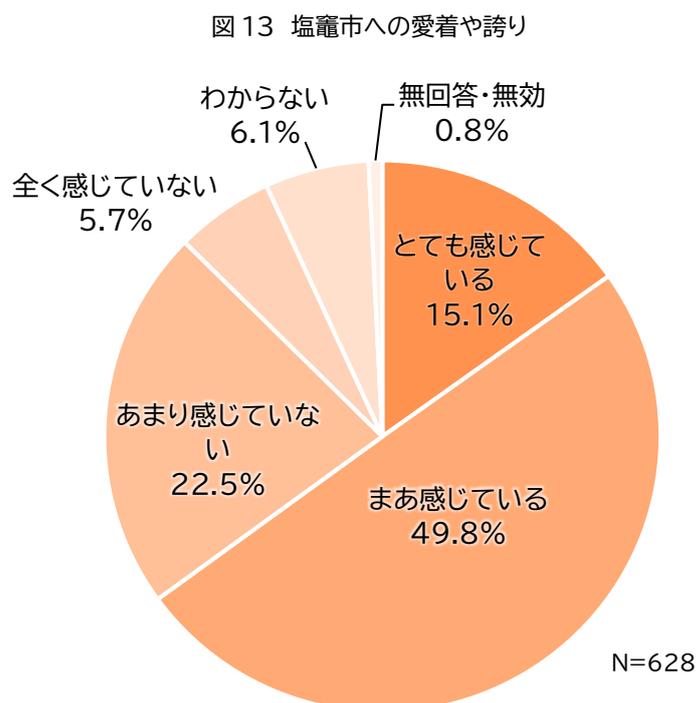
「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、市民の皆様のまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

調査対象	18歳以上の市民を対象に、無作為抽出した2,000人（年代別同数）
配布数	2,000票
調査方法	郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収
回収状況	628票（31.4%）

(1) 塩竈市への愛着や誇りについて

塩竈市への愛着や誇りについて、「まあ感じている」が49.8%と最も多く、次いで「あまり感じていない」が22.5%、「とても感じている」が15.1%となっています。

「とても感じている」と「まあ感じている」を合わせると64.9%が塩竈市への愛着や誇りを感じています。



(2) 住みやすさについて

- 「とても住みやすい」と「住みやすい」を合わせると 52.4%となっており、その理由は「バス・鉄道等の交通の便が良いから」が最も多く、次いで「居住環境が良いから」、「歴史のあるまちだから」となっています。
- 「あまり住みやすいとは思わない」と「住みにくい」を合わせると 41.0%となっており、その理由は「娯楽・遊戯施設が少ない」が最も多く、次いで「買い物するのに不便」、「公共料金が高い」、「バス・鉄道等の交通の便が良くない」となっています。

図 14 住みやすさ

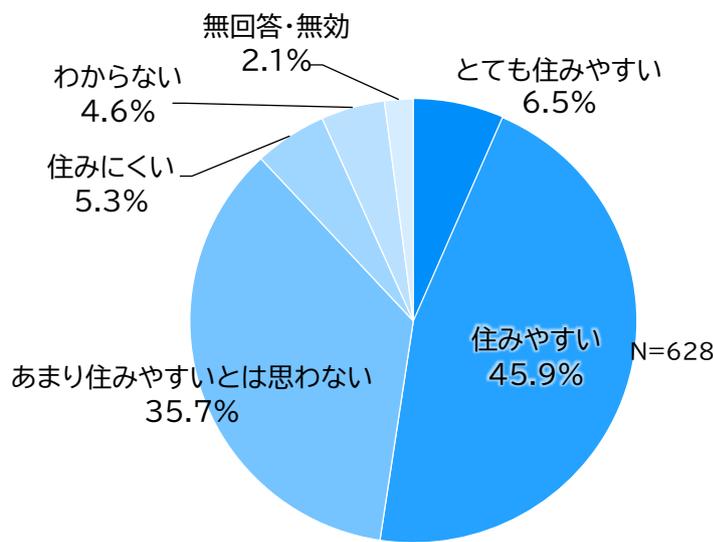


図 15 住みやすいと思う主な理由(TOP5)

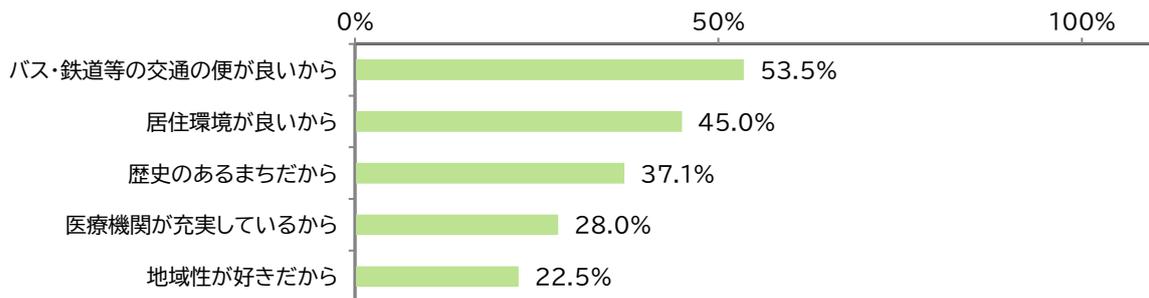
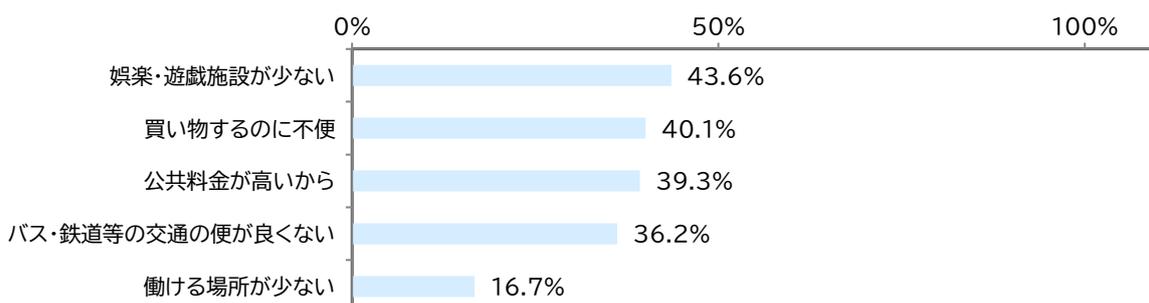


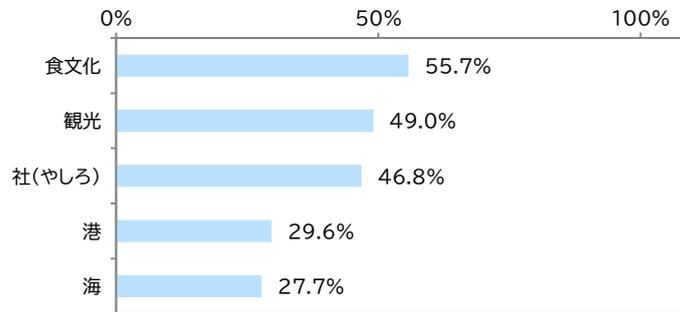
図 16 住みやすいと思わない主な理由(TOP5)



(3) まちづくりキーワード

「食文化」が55.7%と最も多く、次いで「観光」が49.0%、「社」が46.8%となっています。

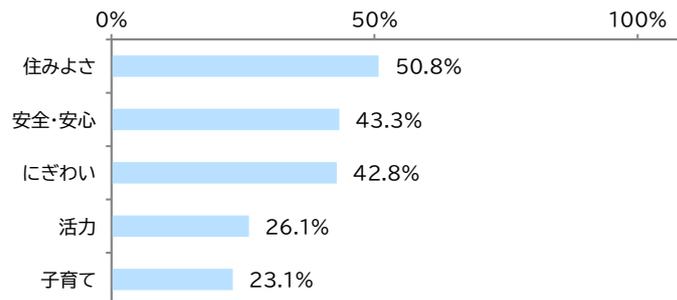
図17 まちづくりのキーワード(地域資源TOP5)



(4) まちづくりのテーマ

「住みよさ」が最も多く50.8%となっており、次いで「安全・安心」が43.3%、「にぎわい」が42.8%となっています。

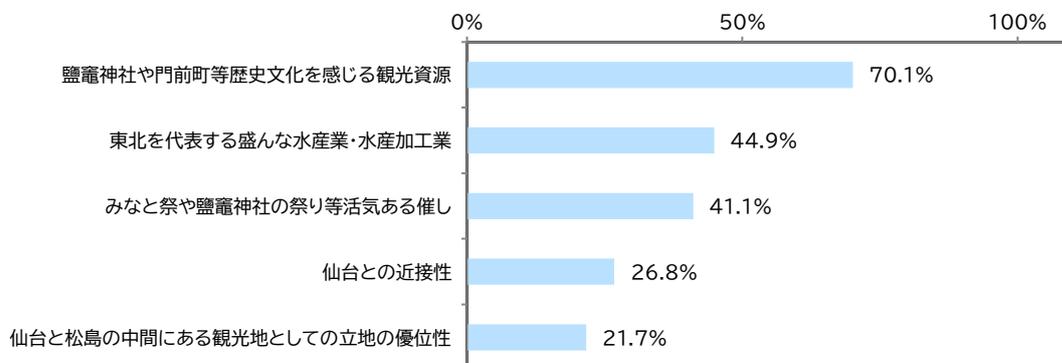
図18 まちづくりのテーマ(TOP5)



(5) 塩竈の魅力

塩竈の魅力は、「鹽竈神社や門前町等歴史文化を感じる観光資源」が70.1%と最も多く、次いで「東北を代表する盛んな水産業・水産加工業」が44.9%となっています。

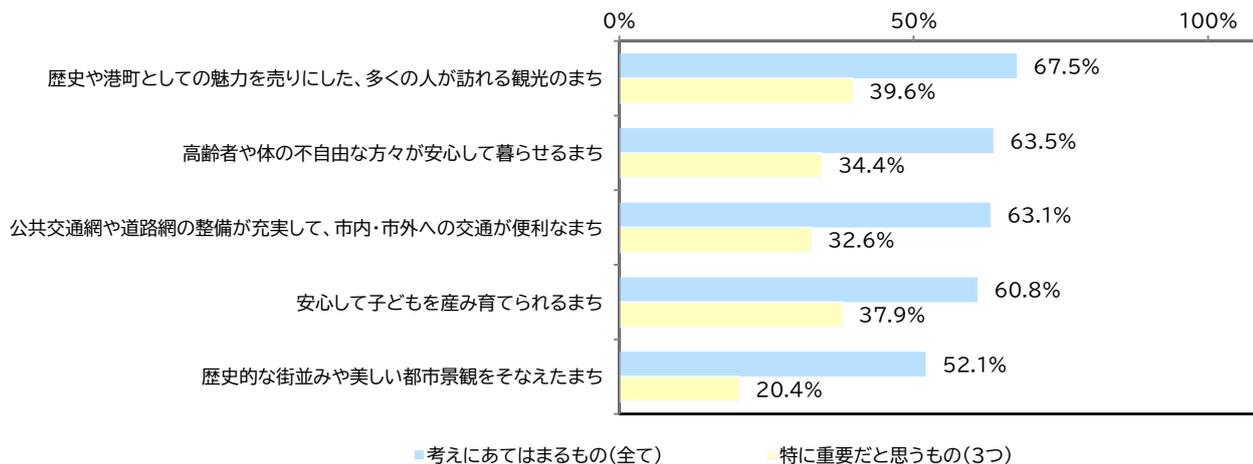
図19 塩竈の魅力(TOP5)



(6) 目指すまちの将来像

目指すまちの将来像は「歴史や港町としての魅力を売りにした、多くの人を訪れる観光のまち」が67.5%と最も多く、次いで「高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせるまち」が63.5%、「市内・市外への交通が便利なまち」が63.1%「安心して子供を産み育てられるまち」が60.8%となっており、いずれも6割を超えています。

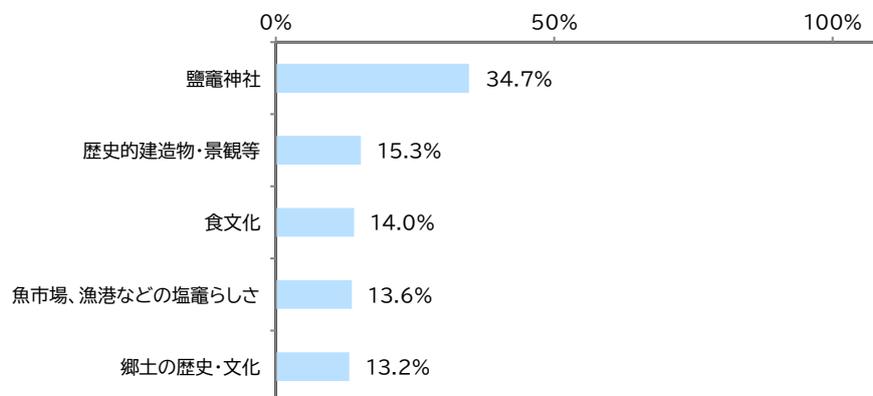
図 20 目指すまちの将来像(TOP5)



(7) 未来に残していきたい塩竈らしさ

未来に残していきたい塩竈らしさは、「鹽竈神社」が34.7%と最も多く、次いで「歴史的建造物・景観等」、「食文化」の順になっています。

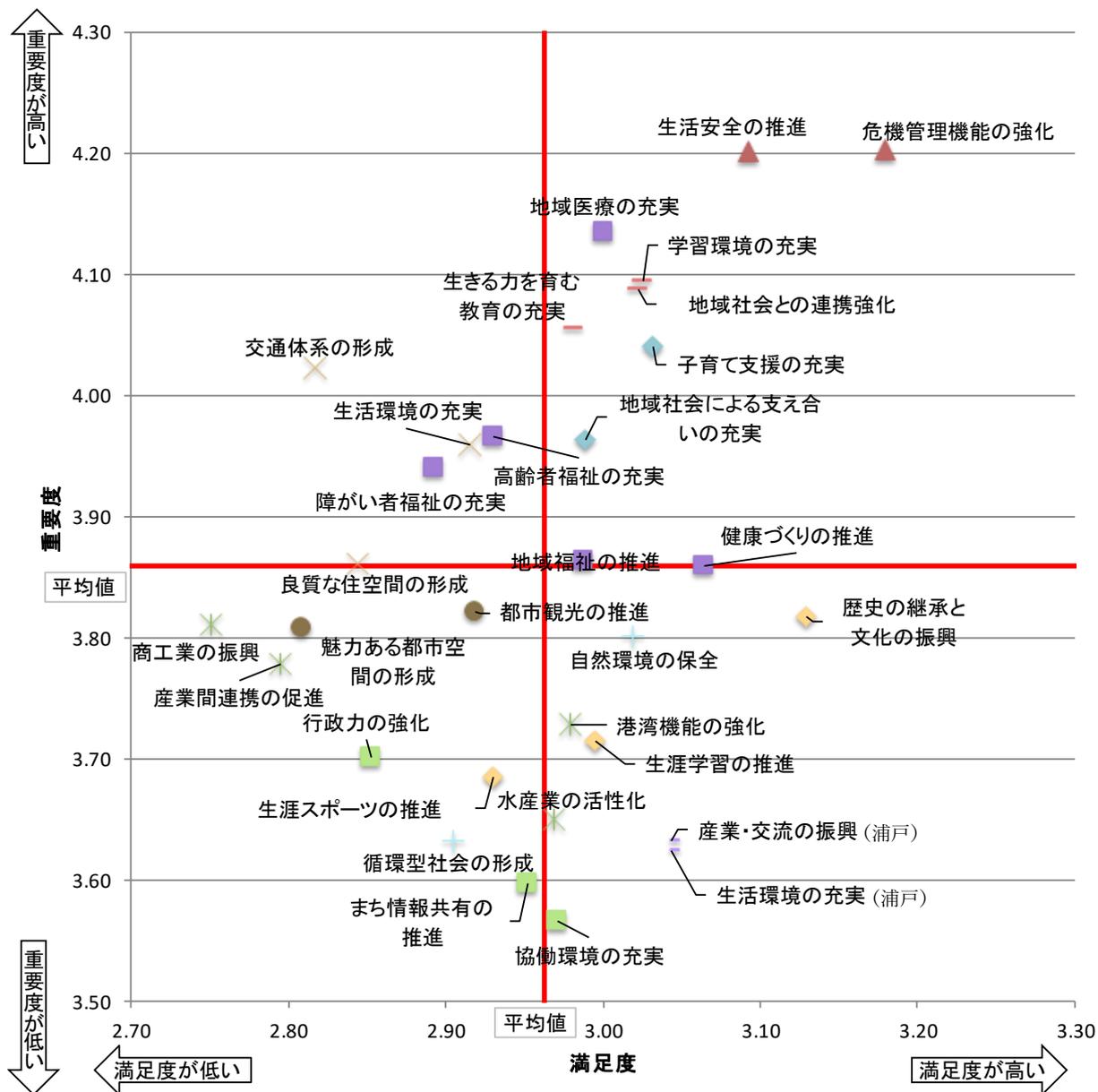
図 21 未来に残していきたい塩竈らしさ(TOP5)



(8) 施策ごとの満足度と重要度

- これまでの市の取組を「満足～不満である」、「重要～重要でない」の5段階でそれぞれ回答いただき、その結果を満足度×重要度マトリクスで評価・分析したものです。
- 重要度は高いが満足度が低い項目は、「交通体系の形成」、「生活環境の充実」、「高齢者福祉の充実」、「障がい者福祉の充実」、「良質な住空間の形成」であり、早期に解決すべき課題となっています。

図 22 施策ごとの満足度と重要度



4) 企業アンケート結果の概要

「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、企業の皆さまの現状やまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

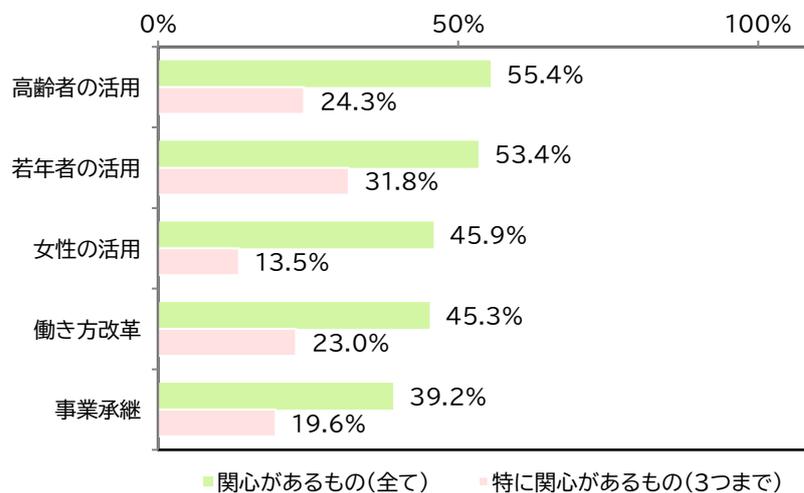
調査対象	商工会議所に加入している事業所のうち、6名以上の従業員が在籍する市内事業所 315社を抽出。
配布数	315票
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	148票 (47.0%)

(1) 今後の企業活動において関心のある項目

地域経済の活性化として、今後の企業活動において関心のある項目は、「高齢者の活用」が最も多く、次いで「若年者の活用」、「女性の活用」となっています。

特に関心のある項目は、「若年者の活用」が最も多く、次いで「高齢者の活用」、「働き方改革」となっています。

図 23 今後の企業活動において関心のある項目(TOP5)

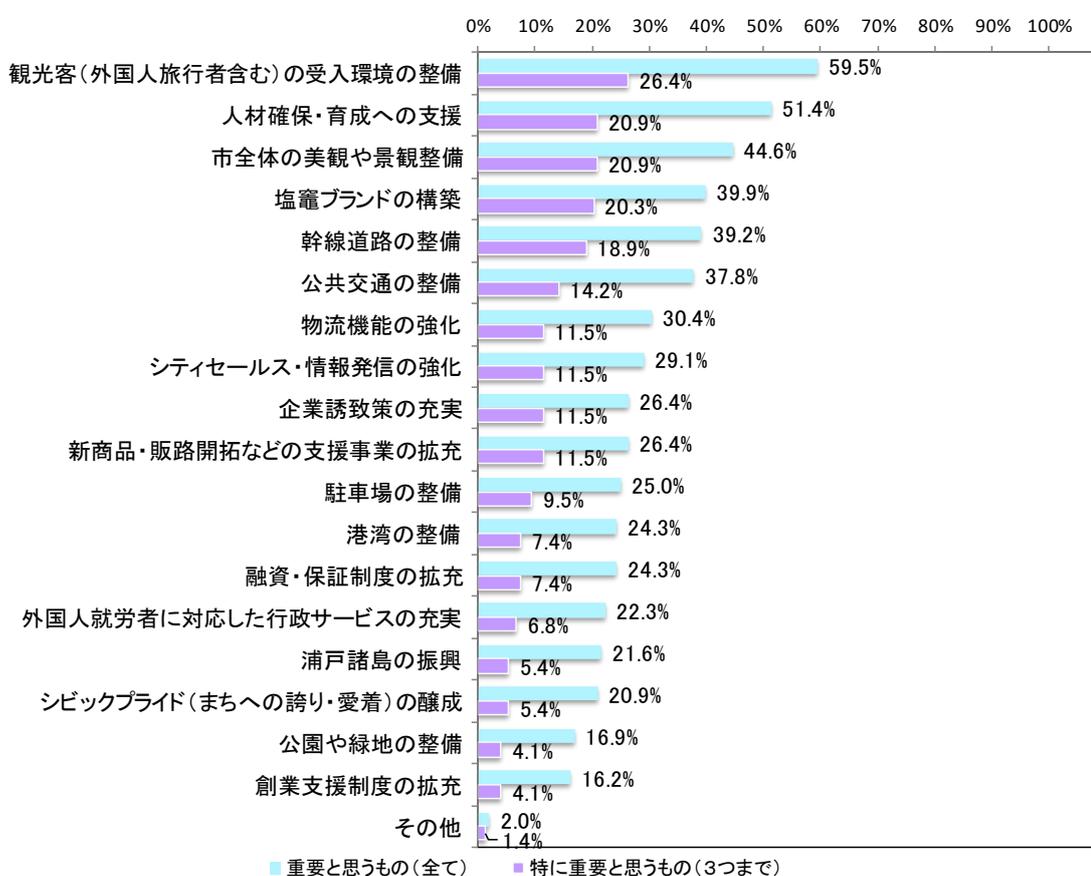


(2) 行政が取り組むべき分野

産業振興による本市の地方創生を図るうえで、行政の取組で重要だと思う分野は、「観光客（外国人旅行者含む）の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「市全体の美観や景観整備」となっています。

特に重要だと思う分野は、「観光客（外国人旅行者含む）の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「幹線道路の整備」となっています。

図 24 行政が取り組むべき分野



5) 事業者ヒアリング

第6次長期総合計画の策定にあたり、事業者からの意見反映の取組の一つとして、ふるさと納税の御礼品提供事業者を訪問し、新型コロナウイルス感染症の影響を含む課題や事業者の視点からの将来のまちづくりについての考えを伺いました。

実施期間	令和2年9月9日～10月8日
ヒアリング事業者数	32社（水産加工業、浅海養殖漁業、小売業等）
ヒアリング項目	今後のまちづくりについて、新型コロナウイルス感染症の影響について など

【ヒアリング結果の概要】

(1) 事業者が抱える課題

- ① 人材不足（特に若い世代の不足）
- ② 原材料の不足とそれに伴う原材料の高騰（水産加工業）
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響による売上および交流人口の大幅な減少、通販シフトなど販売方法の多様化への対応
- ④ 少人数旅行者の増加を見込んだ観光客の回遊性の確保

(2) 消費者ニーズの的確な把握と自社の商品に対する深いこだわり

- ① 原材料の厳選や手造りや無添加食品の製造など健康意識の高まり
- ② 伝統的な製造方法の継承や消費者の視点に立った商品開発
- ③ 高価格とはなるが、とにかく良いものを製造販売する意識の広がり

(3) 事業者間での共通点

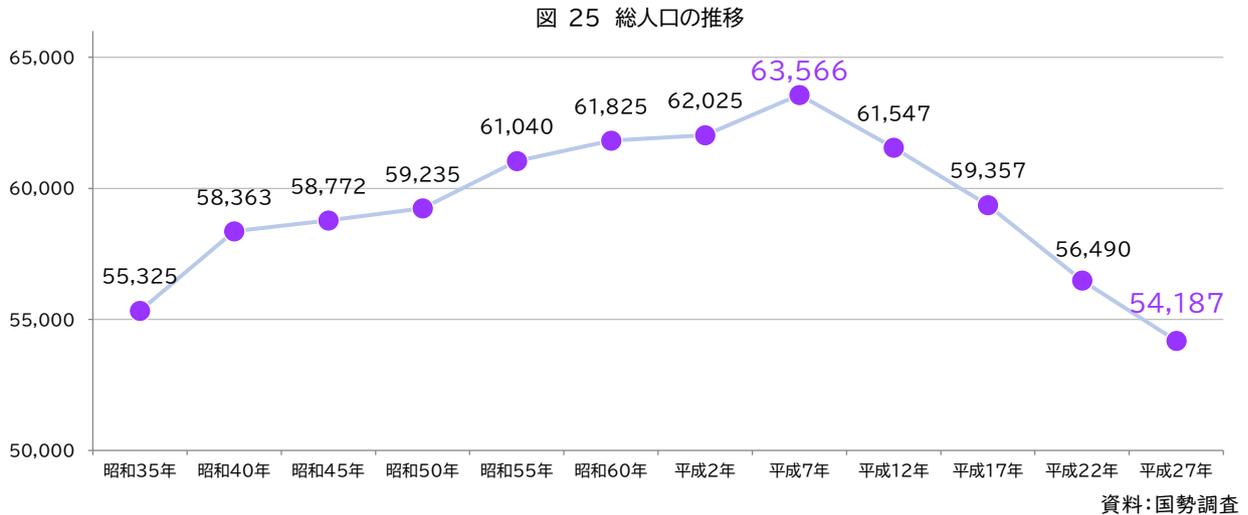
- ① 特に若い経営者の方々は、販売や製造において同業や他業種とのつながりを求めている。
- ② 市民にもっと自社の商品を知ってもらいたいという思いが強い。
- ③ 塩竈は「商品の高付加価値化につながる場」という認識を持っている。

2 人口の動向

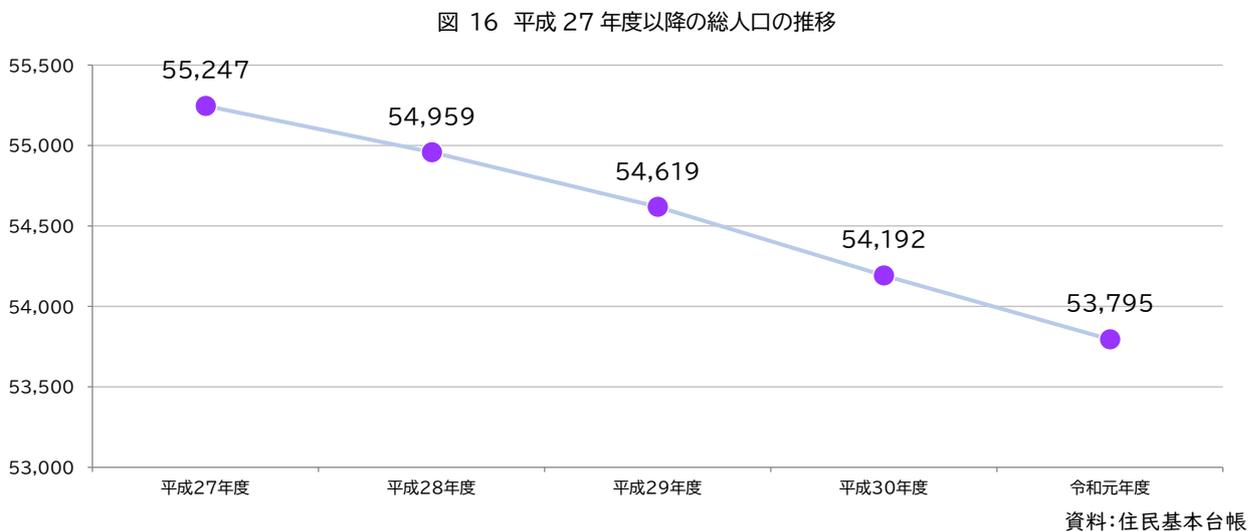
1) 人口の動向分析

(1) 総人口の推移

本市の人口は、平成7年の63,566人をピークに、減少傾向に転じ、平成27年10月に行われた国勢調査では54,187人となっています。

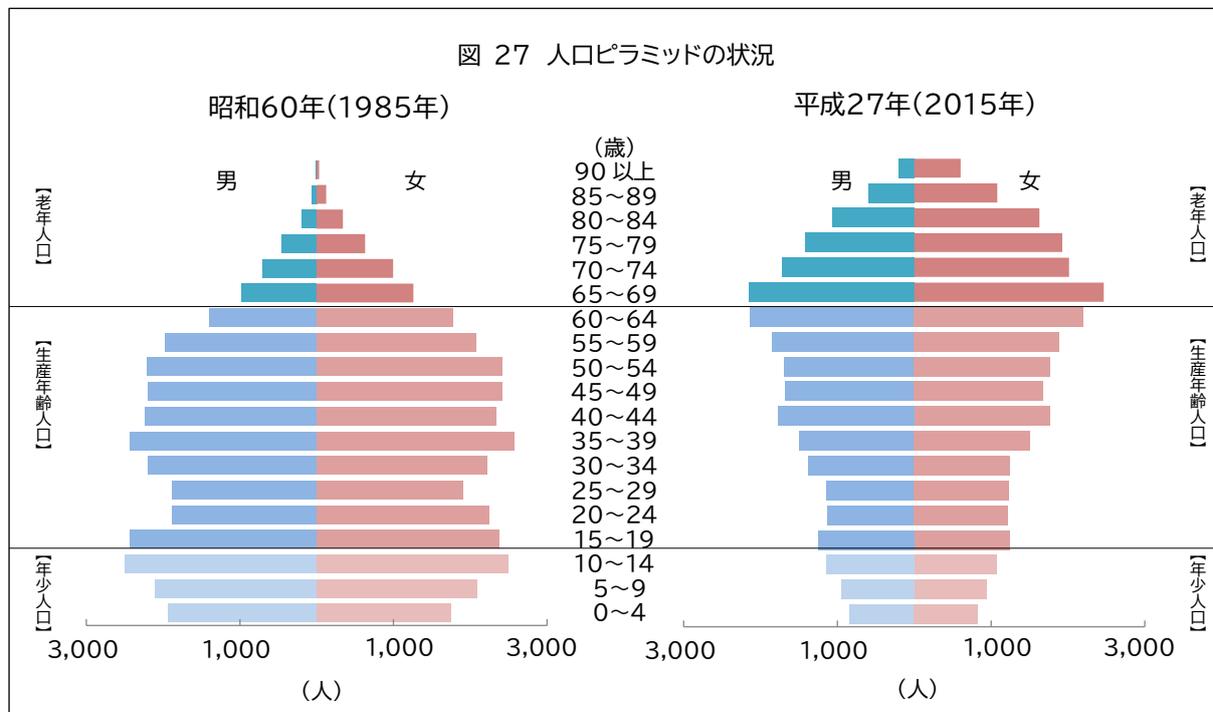


平成27年度以降の人口の推移について、各年度末の住民基本台帳人口で見ても、本市の人口は減少傾向が続いており、令和元年度末では53,795人となっています。



(2) 人口ピラミッドの状況

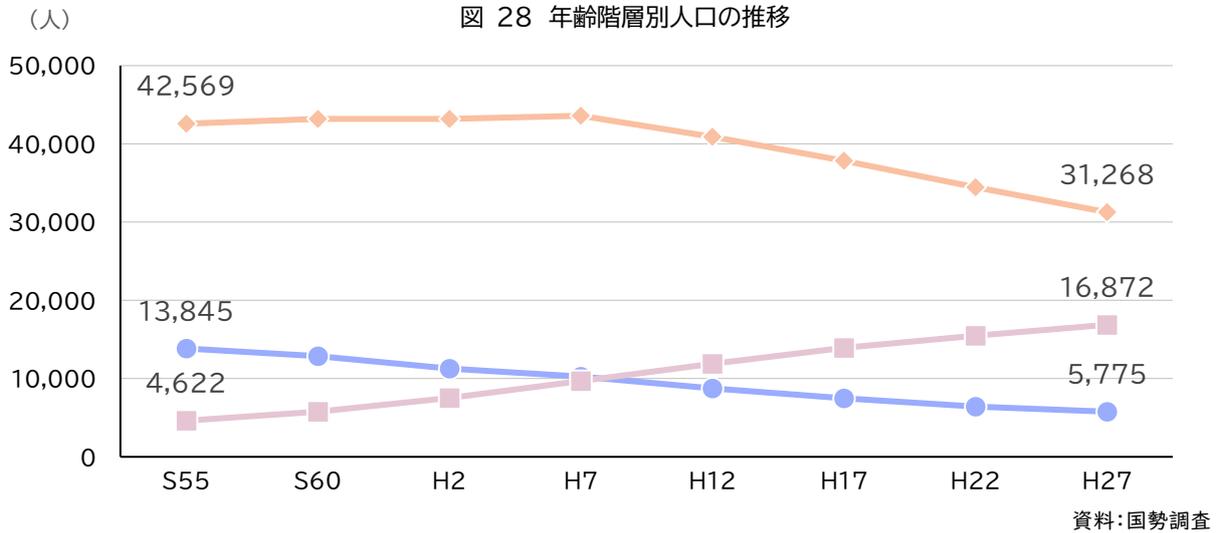
人口ピラミッドの推移をみると、昭和60年には年少人口が多く、老年人口（65歳以上）が少ない状態でしたが、平成27年には生産年齢人口の減少が進むとともに、年少人口よりも老年人口が多い状況に変化しています。



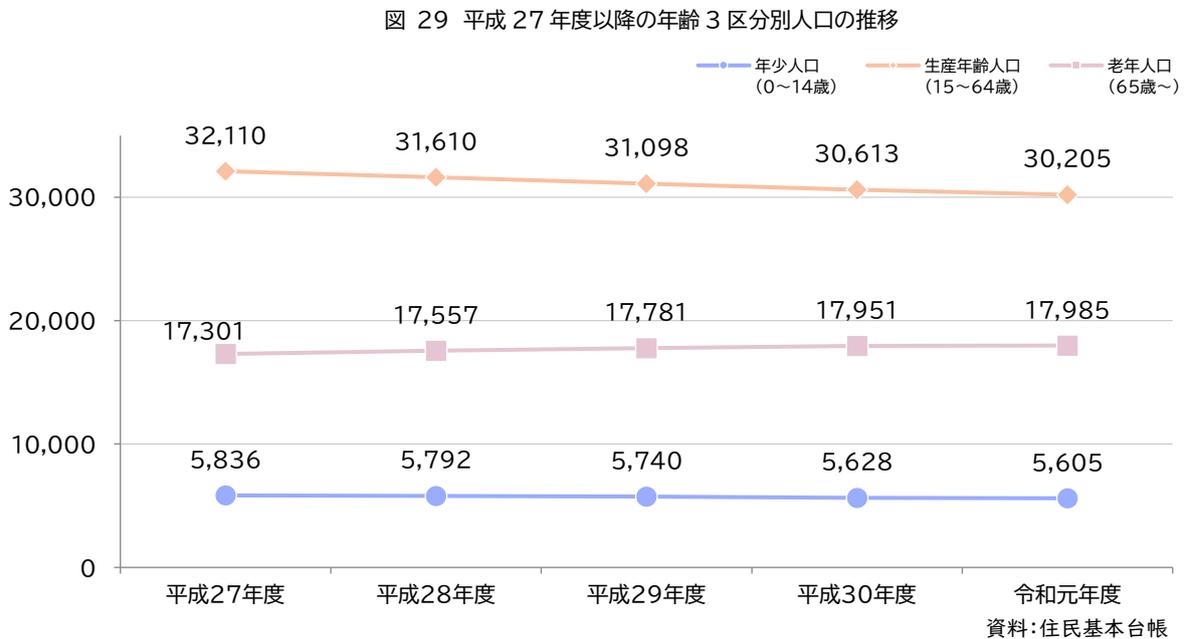
資料: 国勢調査

(3) 年齢3区分別人口の推移

本市の年齢3区分別の人口をみると、生産年齢人口（15～64歳）は平成7年の43,590人をピークに減少傾向に転じています。また、この年を境に老年人口（65歳以上）と年少人口（0～14歳）の逆転が始まっています。



平成27年度末以降の住民基本台帳人口の推移でも、生産年齢人口や年少人口は減少していますが、老年人口は増加しています。

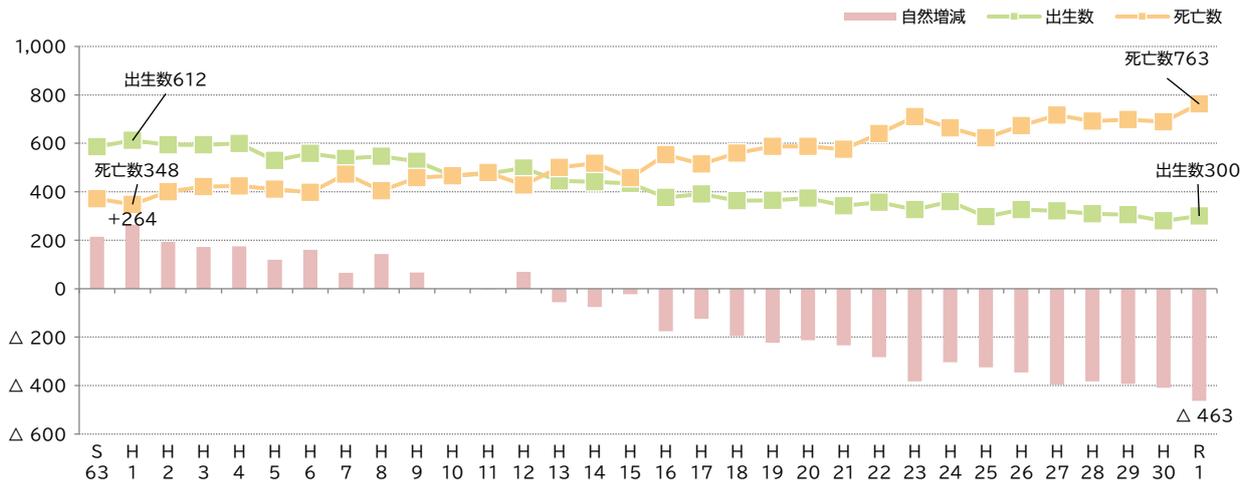


(4) 出生、死亡及び移動（転入及び転出）の推移

①自然増減の推移（出生、死亡の推移）

平成9年まで自然増の状態が続いていましたが、高齢化の進行に伴う死亡者の増加と若年層の減少に伴う出生者数の低下により、平成11年に初めて死亡数が出生数を上回る自然減となり、平成13年以降その傾向が続いています。

図 30 自然増減の推移

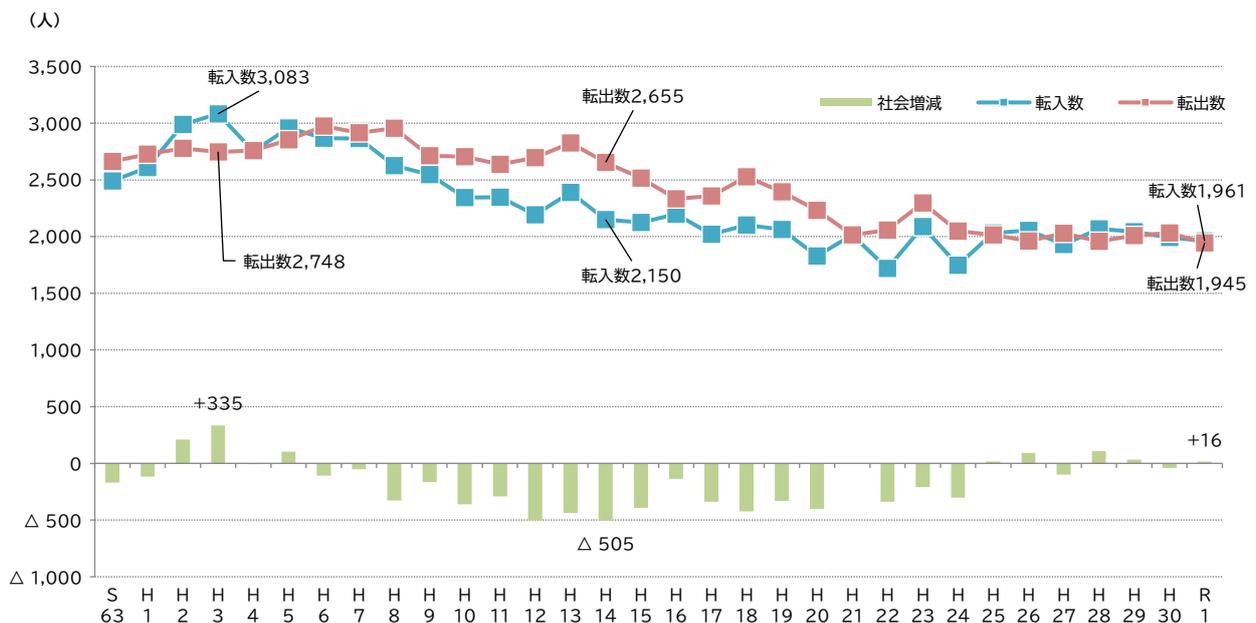


資料：住民基本台帳

②社会増減の推移（転入、転出の推移）

他自治体との間の人口移動については、平成6年以降は、転入者数・転出者数ともに減少傾向にある中で、より転入者数の減少が大きく、転出超過（社会減）の状態が続いていましたが、平成25年からは微増傾向に転じ、近年はほぼ横ばいとなっています。

図 31 社会増減の推移



資料：住民基本台帳

③合計特殊出生率及び出生数の推移

1人の女性が一生に産む子どもの人数とされる「合計特殊出生率」の推移をみると、平成16年の1.07から横ばいの傾向が続いていましたが、平成24年以降、増減の変動を示しながらも増加傾向にあります。しかしながら、宮城県や全国の数値と比較すると低くなっています。

合計特殊出生率が伸びているにもかかわらず出生数が減少しているのは、合計特殊出生率を算出する際に母数とする「15歳～49歳までの女性」の人口が、年齢別人口構成の変動に表れているように、大きく減少していることに起因しており、若い世代の人口増加も重要な要素となることが分かります。

図 32 合計特殊出生率の推移

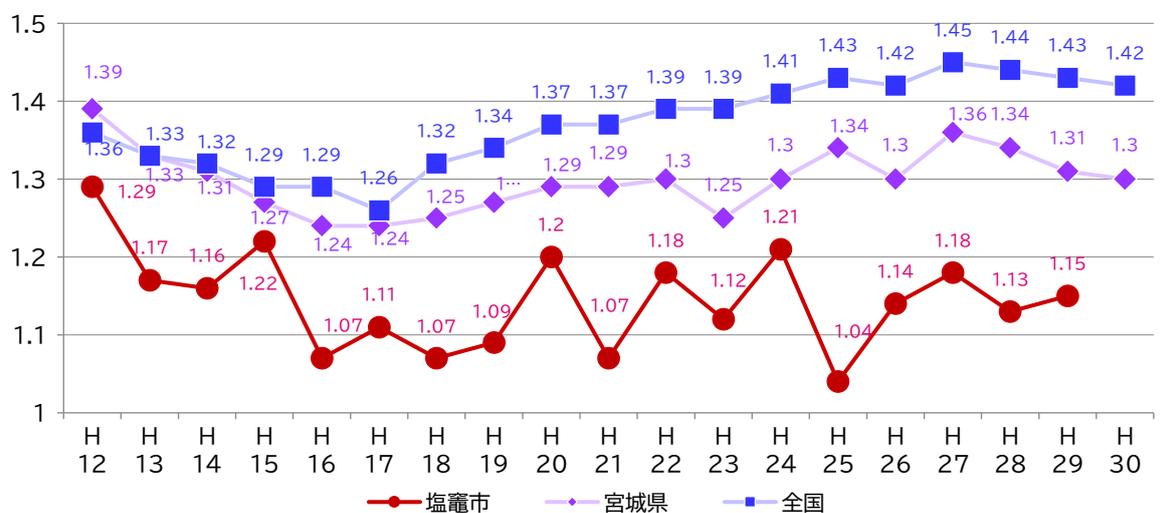
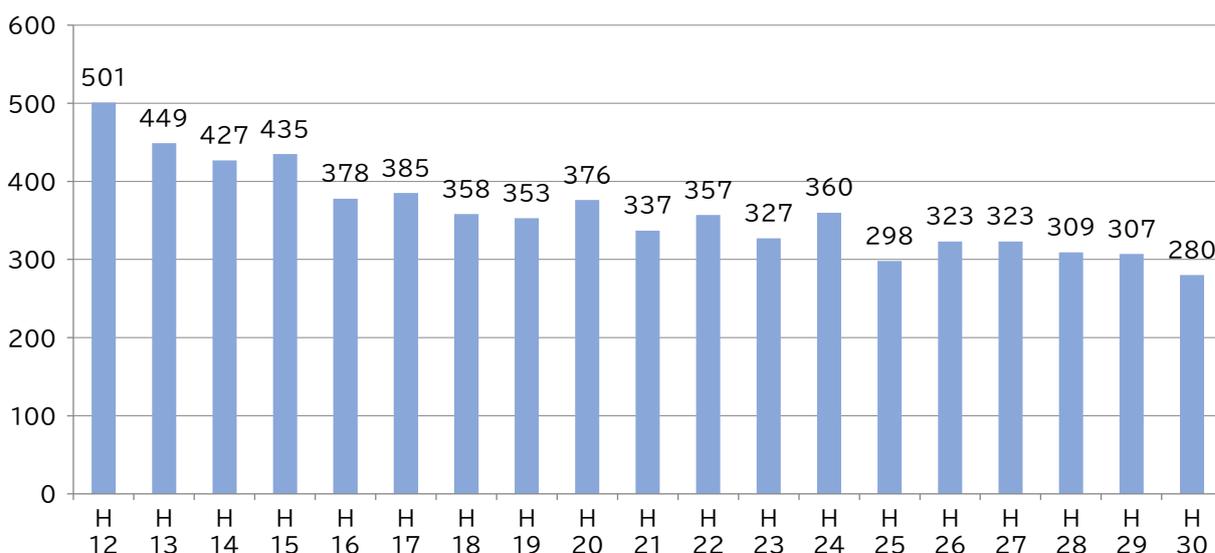


図 33 出生数の推移

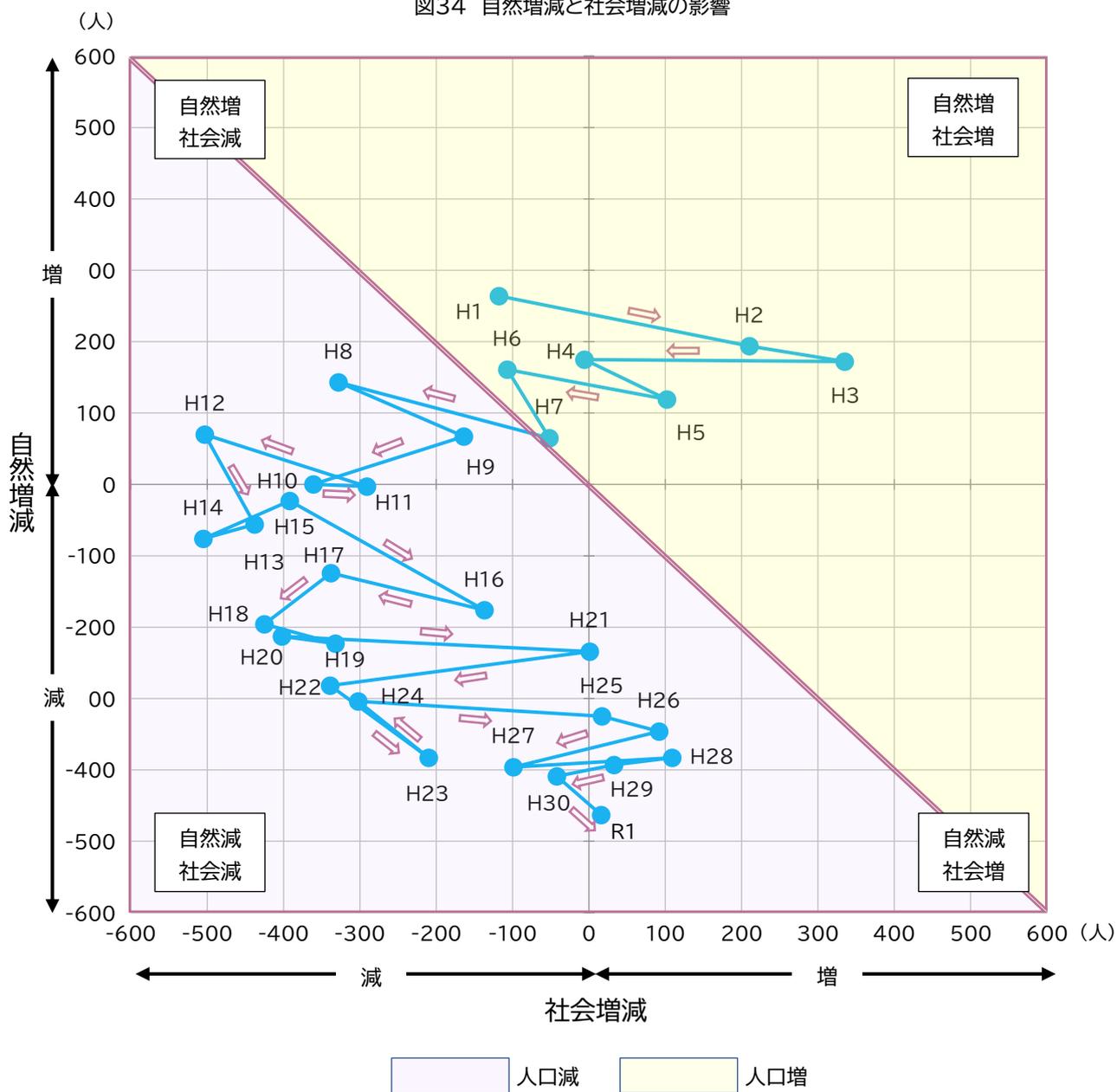


(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

本市では、平成7年までは自然増の影響が大きく、人口は増加傾向でありました。

平成11年から自然減が始まり、平成12年を除いて「自然減・社会減」の状態が続いていましたが、平成25年以降は、わずかながら社会増に転じており、近年では社会減よりも自然減の影響の方が大きくなっています。

図34 自然増減と社会増減の影響

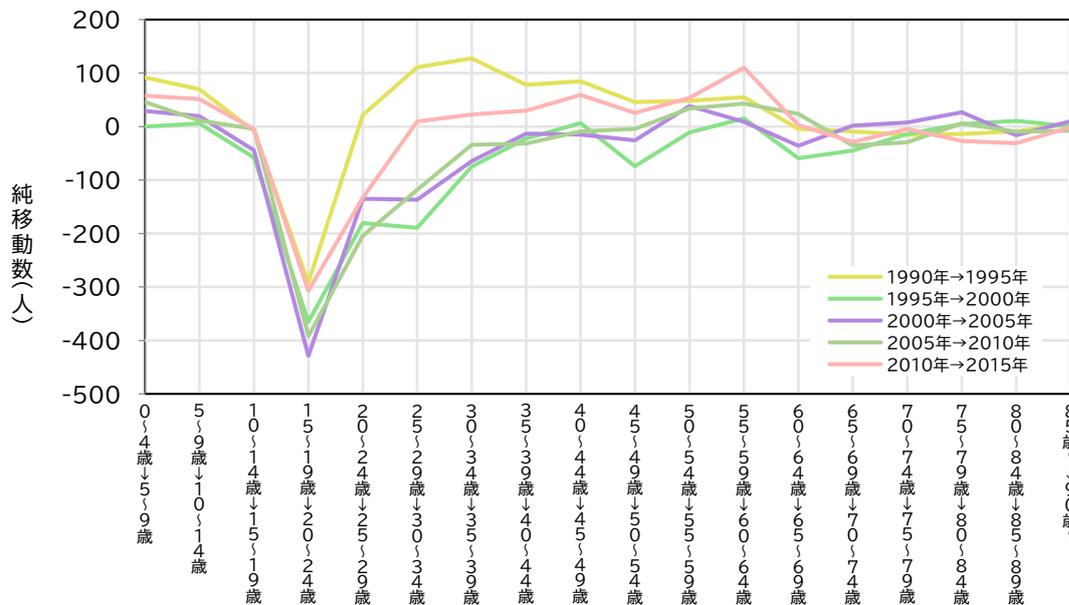


資料：住民基本台帳（各年12月末現在）

(6) 年齢階級別の人口移動の状況

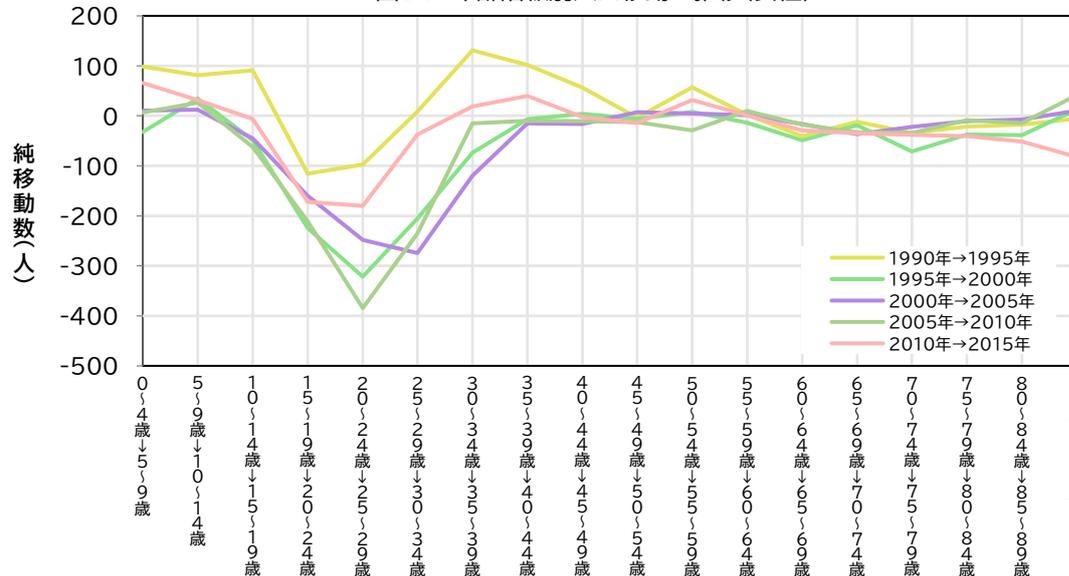
国勢調査の結果を用いて「昭和 55 (1980) 年から昭和 60 (1985) 年」以降の純移動数を推計し、年齢別・男女別の長期的動向を比較してみると、男性は 10 代後半から 20 代前半の転出超過による減少が大きく、女性は 10 代後半から 20 代までの転出超過による減少が大きい状況です。

図35 年齢階級別人口移動の推移(男性)



資料：国勢調査

図36 年齢階級別人口移動の推移(女性)



資料：国勢調査

※純移動数は、国勢調査の人口と各期間の生残率を用いて推定した値。例えば、2005→2010年の0～4歳→5～9歳の純移動数は、下記のように推定されます。

$$2005 \rightarrow 2010 \text{ 年の } 0 \sim 4 \text{ 歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{ 歳の純移動数} \\ = 2010 \text{ 年の } 5 \sim 9 \text{ 歳} \textcircled{1} - 2005 \text{ 年の } 0 \sim 4 \text{ 歳人口} \times 2005 \rightarrow 2010 \text{ 年の } 0 \sim 4 \text{ 歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{ 歳の生残率} \textcircled{2}$$

生残率は、厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表」より求めています。②は人口移動がなかったと仮定した場合の人口を表しており、実際の人口(①)から②を差し引くことによって純移動数が推定されます。

(7) 仙台都市圏市部との比較

本市の人口を仙台市周辺の主な市と比較すると、他市は増加または横ばい傾向にあるのに対し、本市のみ、平成7年をピークに減少傾向にあります。

少子高齢化の傾向も、他市に比べて早く進んでいます。

図37 周辺市部との人口推移の比較

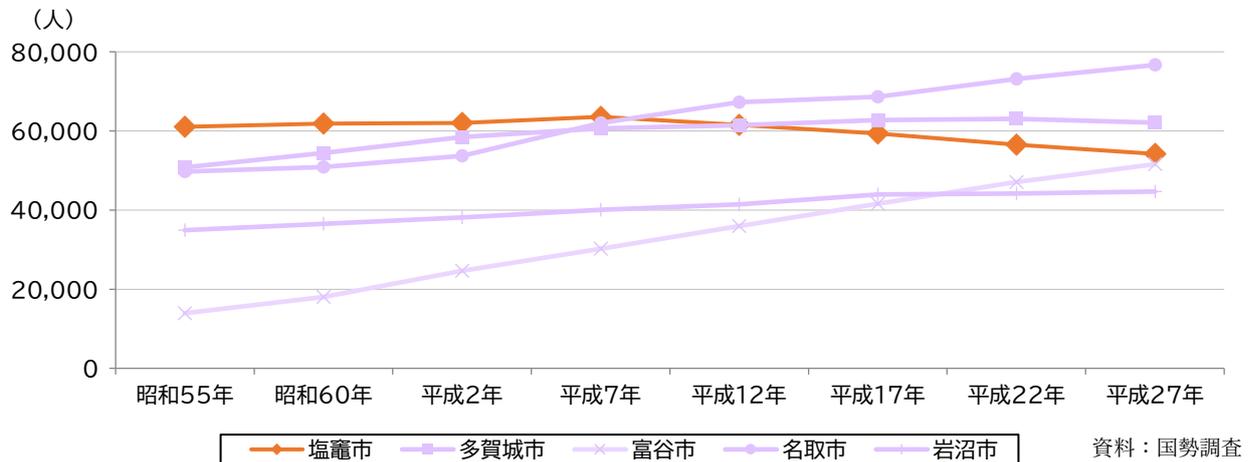


図38 周辺市部との年少人口比率の比較

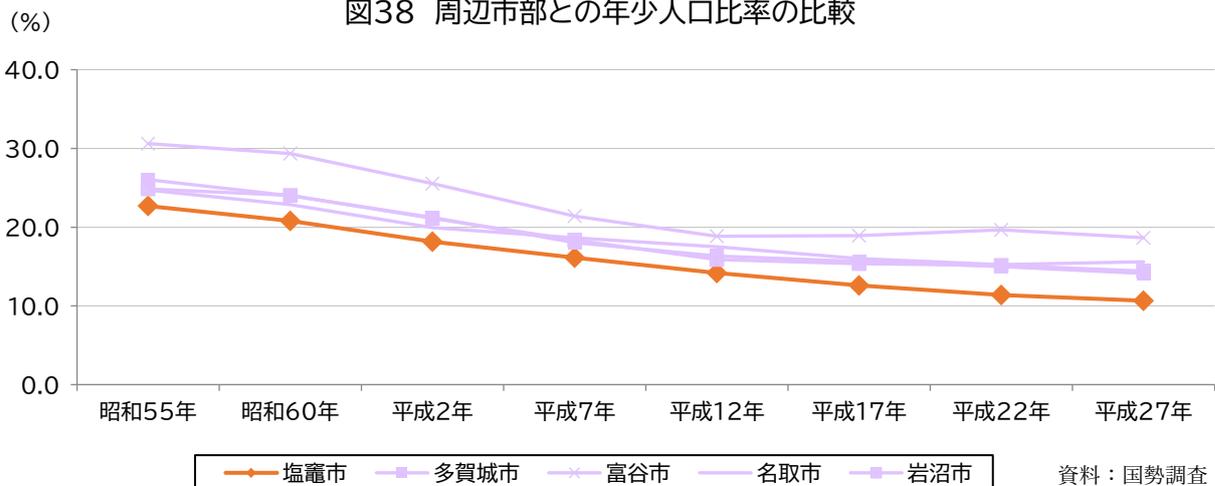
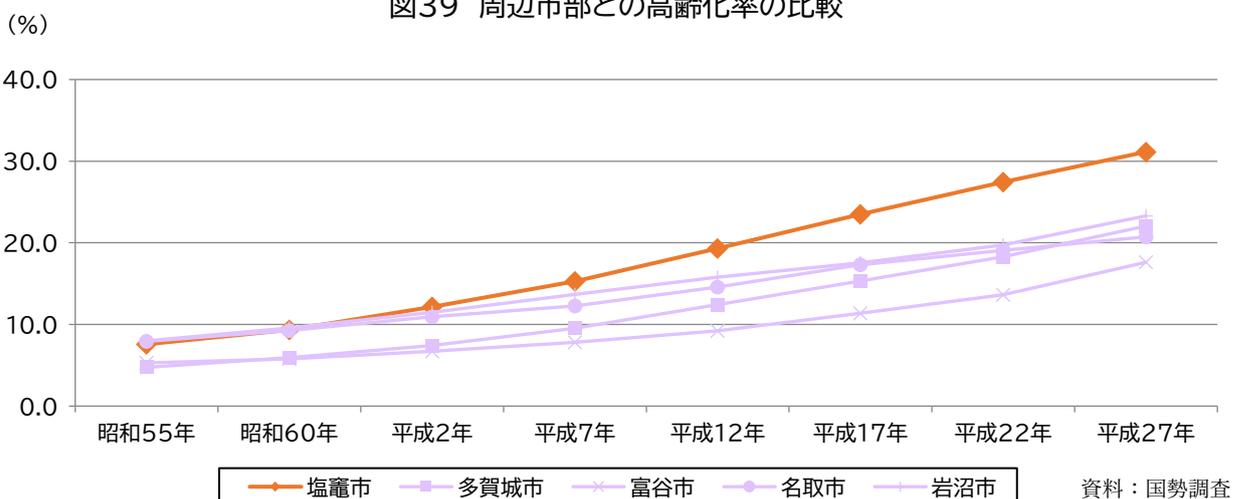


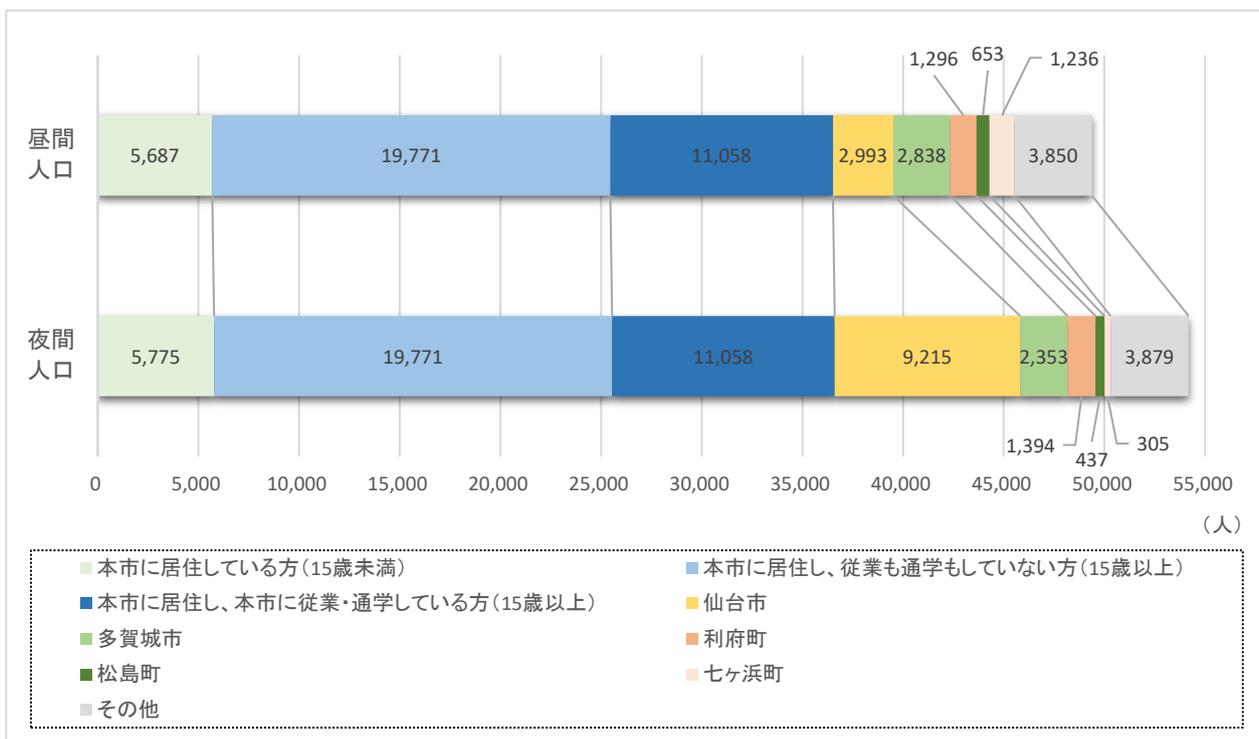
図39 周辺市部との高齢化率の比較



(8) 昼間人口・夜間人口

平成 27 年国勢調査によると、夜間人口（常住人口）は 54,187 人であり、本市と他市町村間の従業者・通学者数を反映した昼間人口は、夜間人口より 4,805 人少ない 49,382 人、昼夜間人口比率は 91.1 となっています。これは、仙台市との間で 6,222 人の流出超過となっていることが大きな要因ですが、近隣 1 市 3 町間の合計では、1,534 人の流入超過となっています。

図40 昼間人口・夜間人口



資料：平成 27 年国勢調査

2) 社人研による将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成 27 年の国勢調査を基に、平成 30 年に推計した「日本の地域別将来推計人口」によると、令和 7 年には 5 万人を下回り、令和 22 年には 4 万人を下回ると推計されております。

その状況下で、年少人口比率(図 42)及び生産年齢人口比率(図 43)は他市より低いままさらに減少が進み、高齢化率(図 44)は他市より高い状態で上昇していくため、本市の少子高齢化は際立って進行していくといえます。

図41 将来人口推計

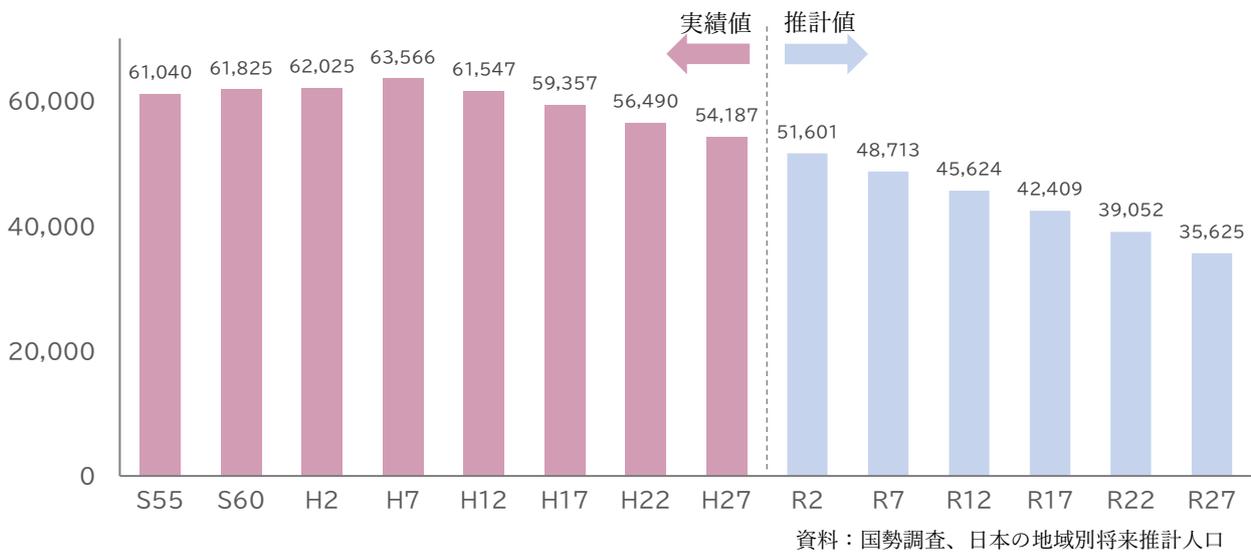


図42 年少人口比率の推移

【仙台都市圏市部(多賀城市, 名取市, 岩沼市, 富谷市)合計との比較】

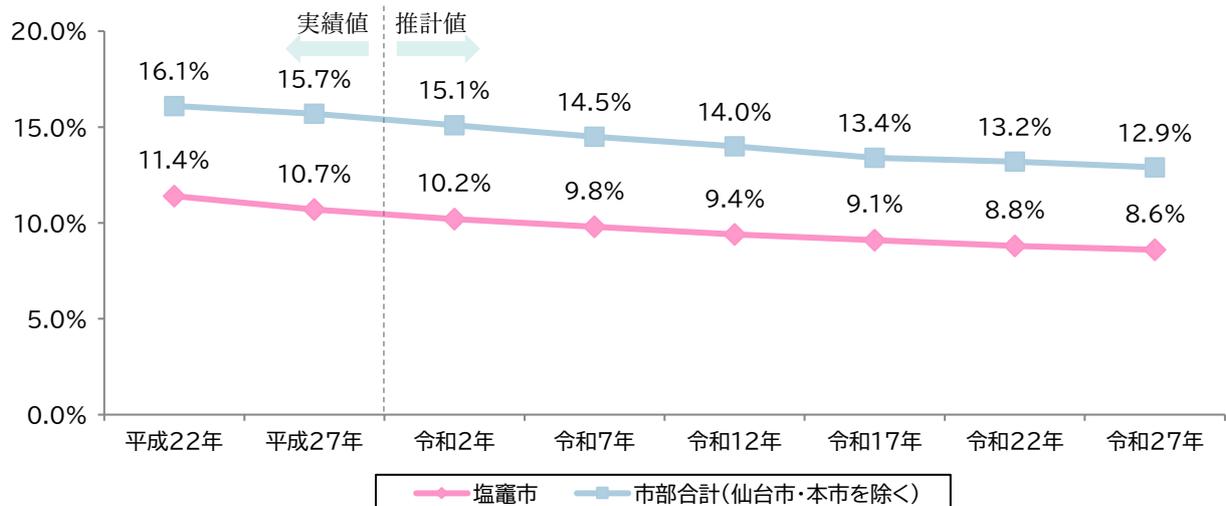
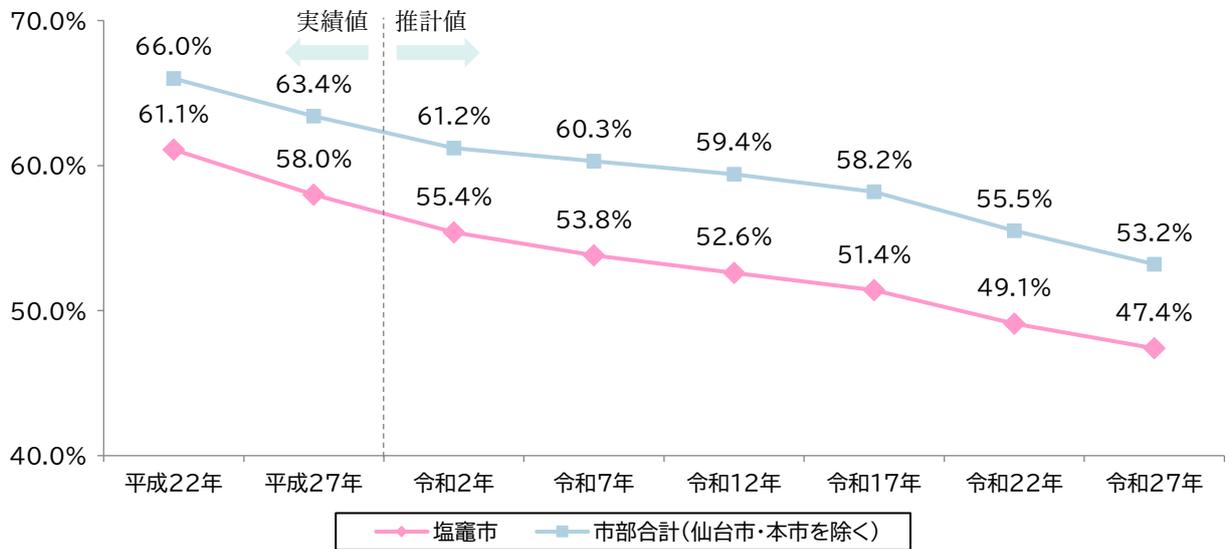
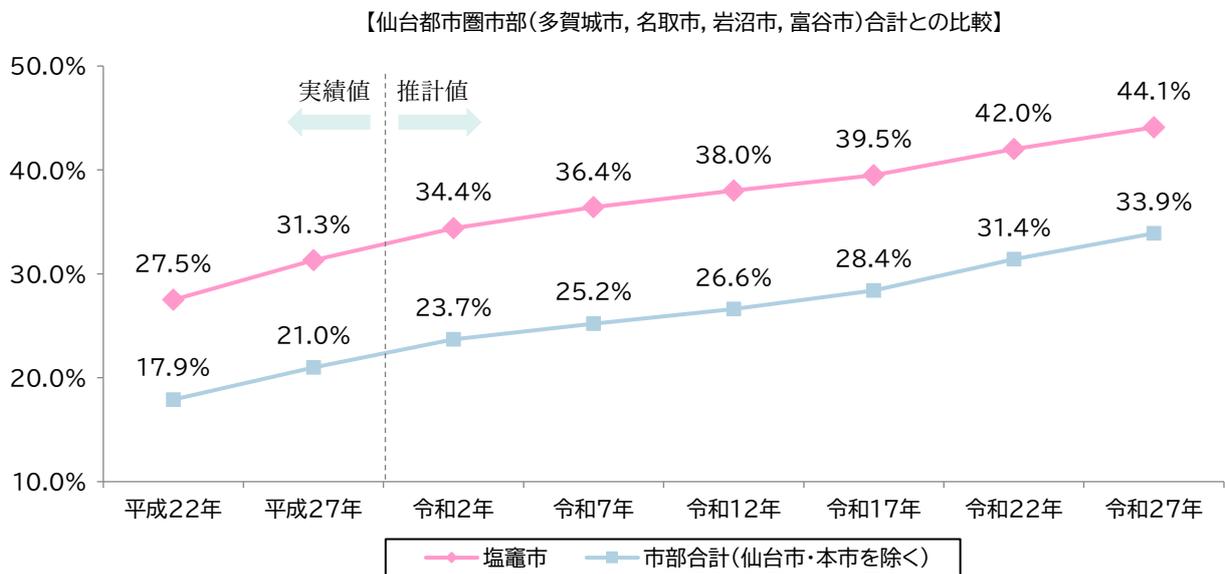


図43 生産年齢人口の推移



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

図44 高齢化率の推移



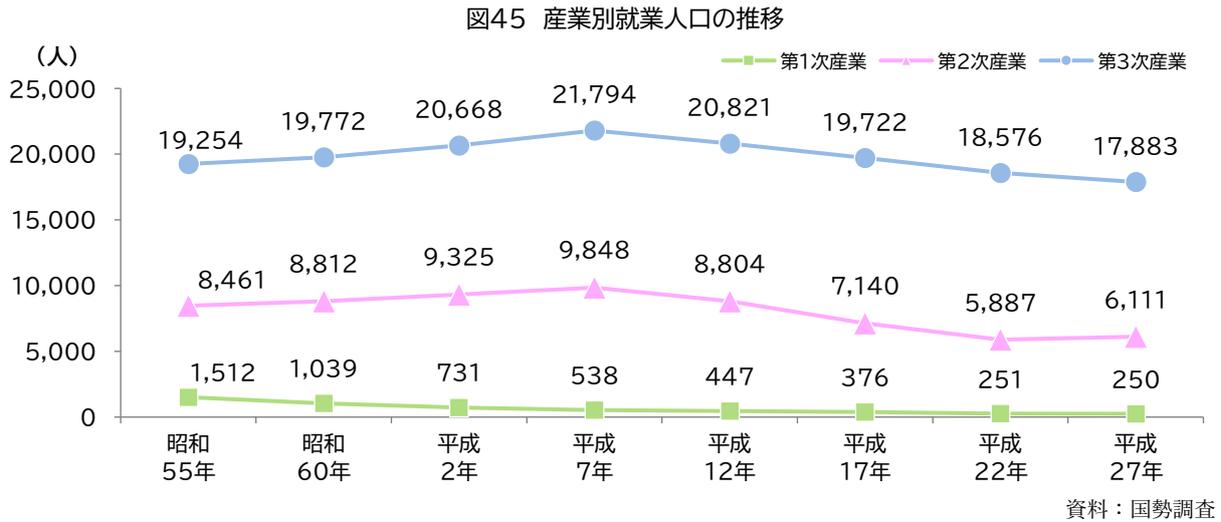
資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

3. 産業の動向

1) 産業別就業人口の推移

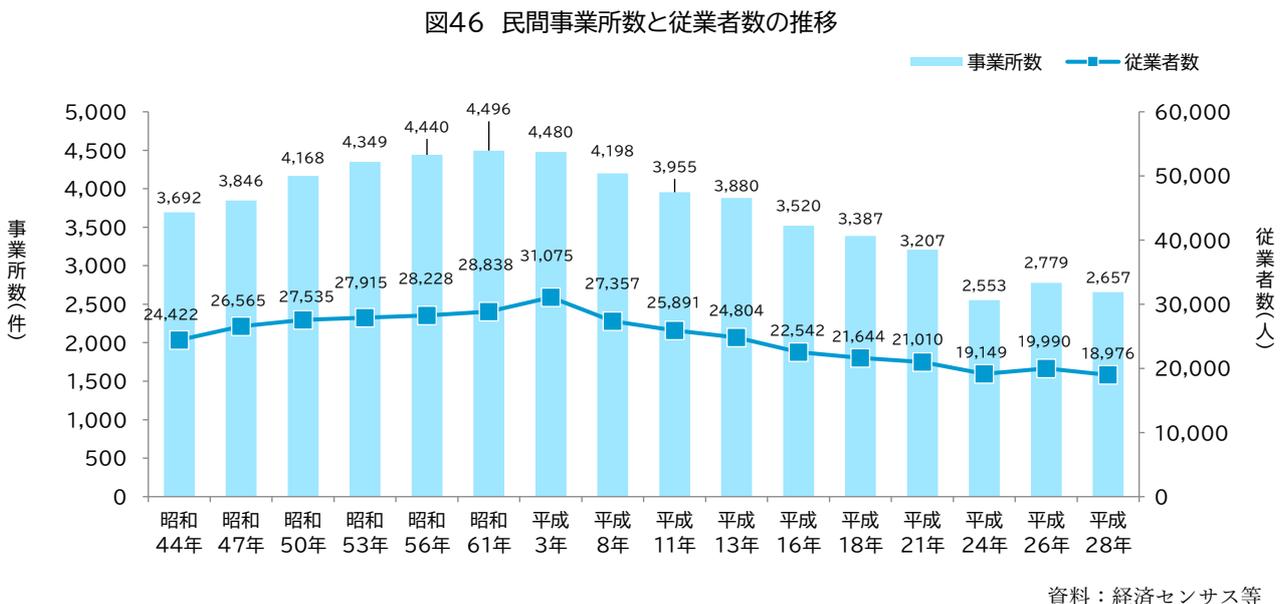
産業別人口をみると、第1次産業の減少が続いており、平成27年には昭和55年からの30年間で約1/6となり、その後は横ばいで推移しています。

第2次産業及び第3次産業は平成7年まで増加傾向にありましたが、それをピークに減少に転じております。



2) 民営事業所数と従業者数の推移

事業所・従業者数は、平成28年において、それぞれピーク時と比較し、1,839事業所、従業者数は12,099人の減少となっています。

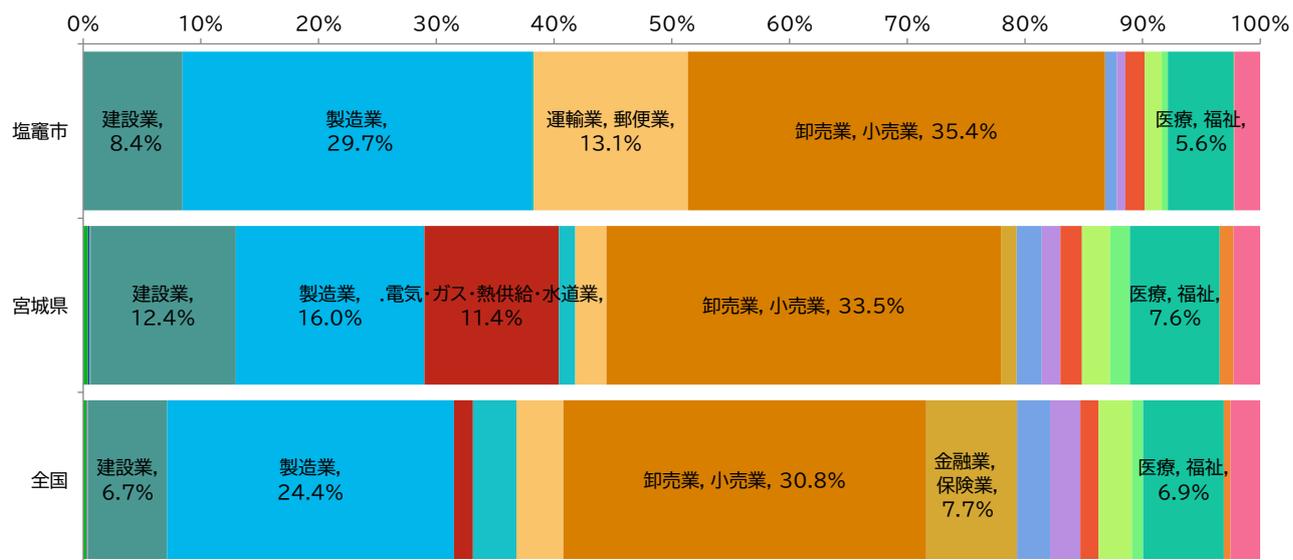


3) 産業大分類別売上高（企業単位）の構成比

本市の産業大分類別の売上高の構成比について、全国・宮城県と比較すると、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」が高く、この3業種で本市産業の売上高の約8割近くを占めています。

※企業単位：本社所在地において企業全体の数値を集計（塩竈市内に本社のある企業について、市外の事業所も含めて合計）したデータ

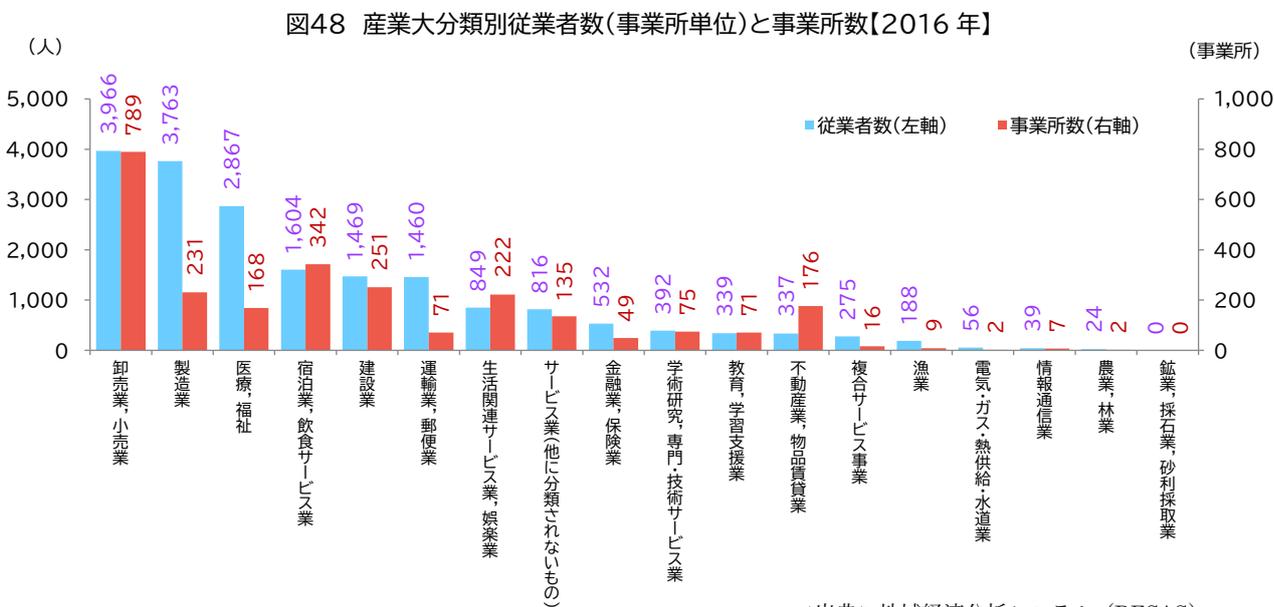
図47 産業大分類別売上高(企業単位)の構成比【2016年】



<出典>地域経済分析システム（RESAS）

4) 産業大分類別従業者数（事業所単位）と事業所数

産業大分類別に見ると、従業者数は、「卸売業・小売業」、「製造業」、「医療、福祉」の順に高く、事業所数は、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「建設業」の順に高い状況となっています。

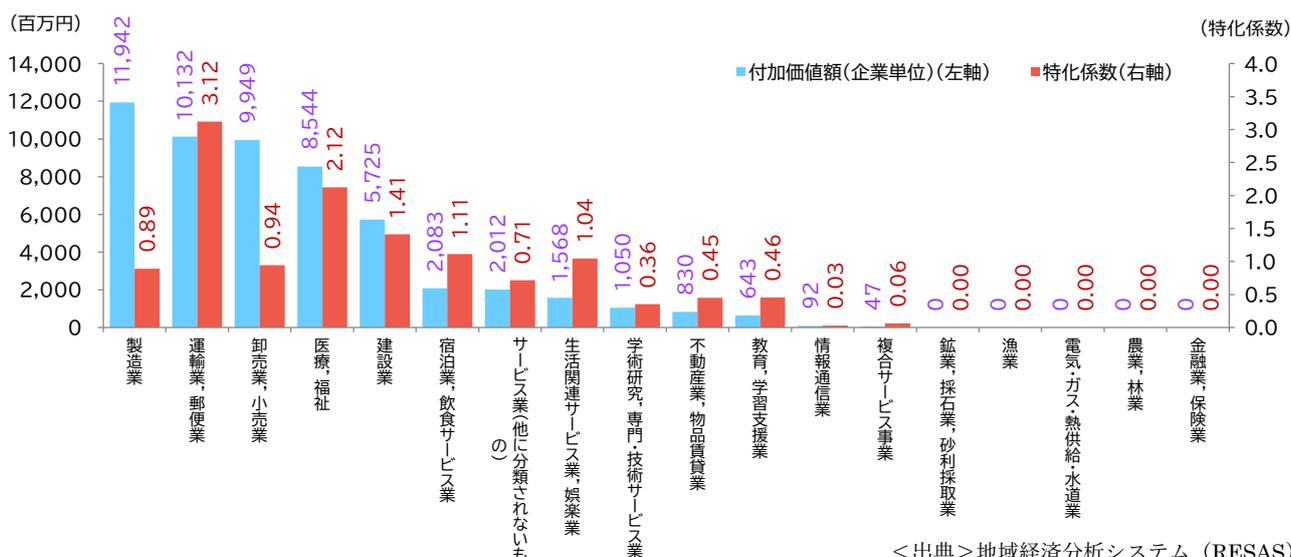


<出典>地域経済分析システム (RESAS)

5) 産業大分類別付加価値額（事業所単位）

産業大分類別に見ると、付加価値額は、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業・小売業」の順に高く、全国の産業の比率と比較した特化係数では、「運輸業、郵便業」、「医療、福祉」、「建設業」の順に高い状況となっています。

図49 産業大分類別付加価値額(事業所単位)【2016年】



<出典>地域経済分析システム (RESAS)

※ 「付加価値額」：企業等の生産活動によって新たに生み出された価値のこと。【売上高－費用総額（売上原価＋販売費及び一般管理費）＋給与総額＋租税公課】

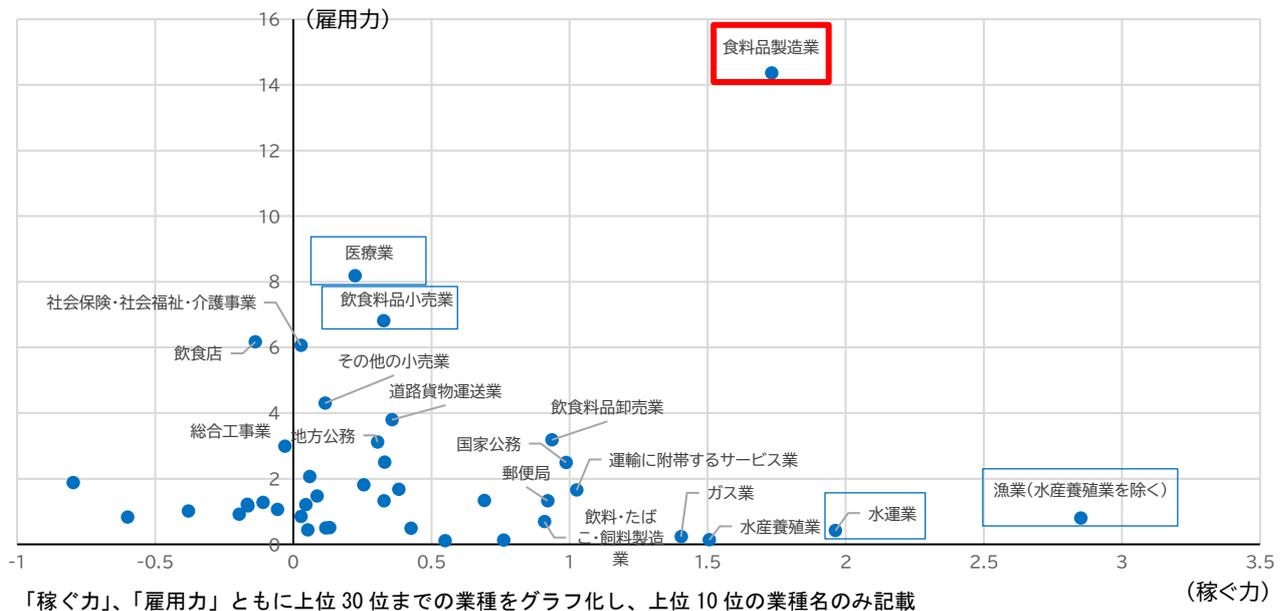
※ 「特化係数」：域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。

6) 産業・雇用創造チャート

総務省が公開している「地域の産業・雇用創造チャート※」においては、「稼ぐ力」は「漁業」、「水運業」、「食料品製造業」の順に高く、「雇用力」は「食料品製造業」、「医療業」、「食料品小売業」の順となっています。

このことから「稼ぐ力」と「雇用力」がともに高い、「食料品製造業」は本市の基盤産業であると言うことができ、「食料品製造業」のさらなる成長は、その他の産業の活性化や人口減少対策にもつながるなど、波及効果が大きいものと考えられます。

図50 本市の産業・雇用創造チャート(2016)



「稼ぐ力」、「雇用力」とともに上位 30 位までの業種をグラフ化し、上位 10 位の業種名のみ記載

<出典>地域の産業・雇用創造チャート（総務省）

※ 地域の産業・雇用創造チャート：総務省により提供されているデータであり、経済理論に沿って、既に公表している経済センサスの結果を市町村ごとに加工・グラフ化したもの。

7) 本市の産業特性について

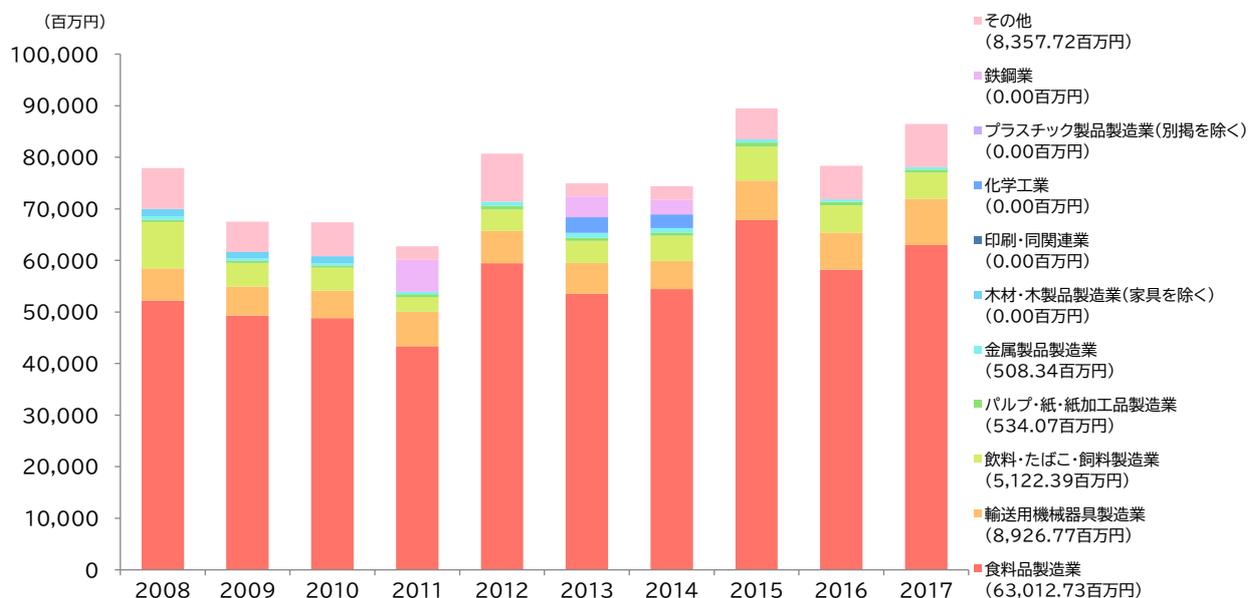
「産業大分類別売上高」や「稼ぐ力と雇用力」で上位であり、本市の特徴的な産業である「製造業」と「小売業」の現況について分析します。

(1) 製造業について

① 製造品出荷額等の推移

製造業の中分類における製造品出荷額等の特徴としては、各年とも水産加工業をはじめとした「食料品製造業」が最も高い割合を占めているほか、総出荷額としては、東日本大震災の2011年に落ち込んだものの、2012年には震災前よりも回復し、その後は増減を繰り返しています。

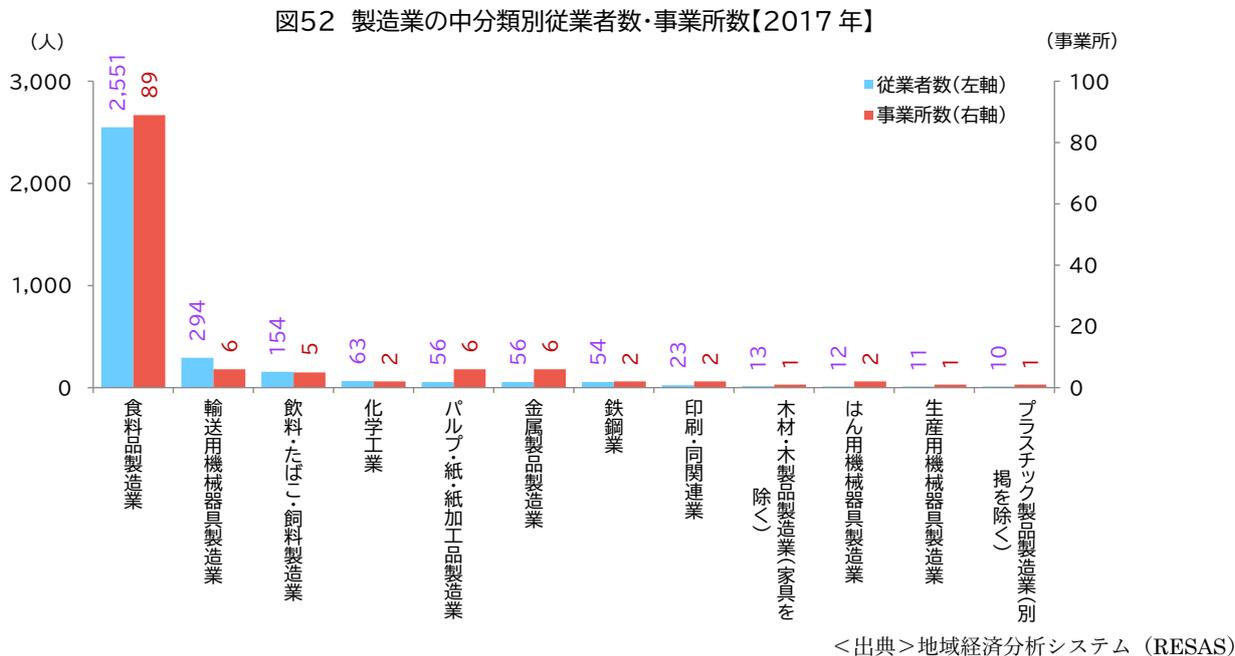
図51 製造品出荷額等の推移



<出典>地域経済分析システム (RESAS)

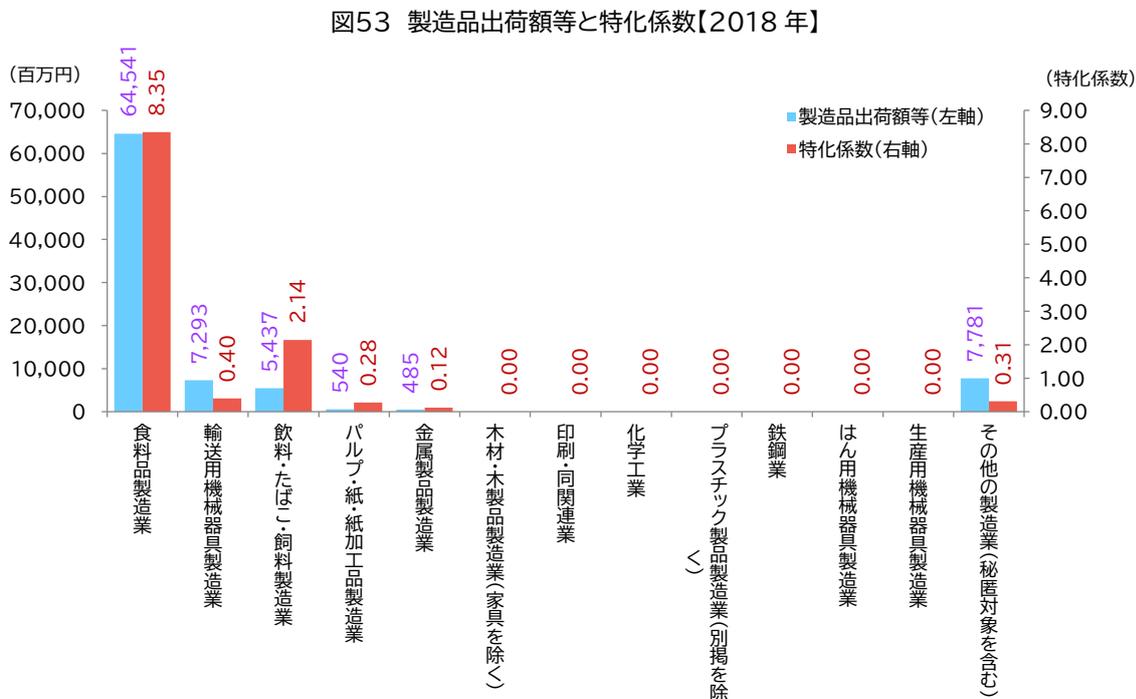
② 従業者数と事業所数

製造業の中分類では、従業者数・事業所数ともに「食料品製造業」が最も多い状況となっています。



③ 製造品出荷額等

製造業の中分類における製造品出荷額等についても「食料品製造業」が最も多い状況となっており、全国と比較した特化係数※も 8.35 とかなり高い値を示しています。



※ 特化係数：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。

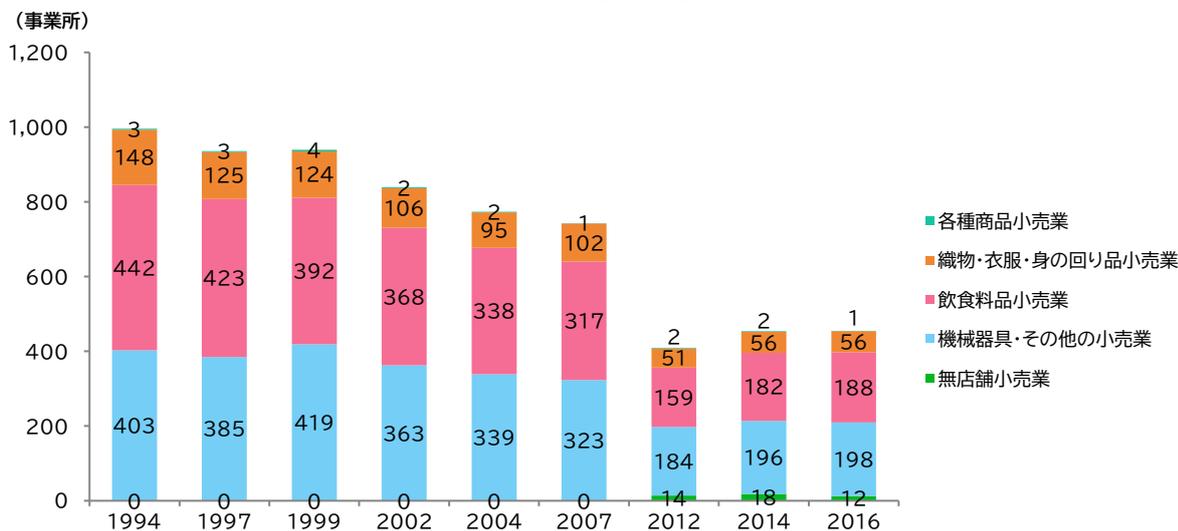
<出典>地域経済分析システム (RESAS)

(2) 小売業について

①事業所数の推移

小売業の中分類における事業所数は、2016年で455事業所と震災前の2007と比較すると288事業所が減少しており、地域経済にも大きな影響を与えています。

図54 事業所数の推移



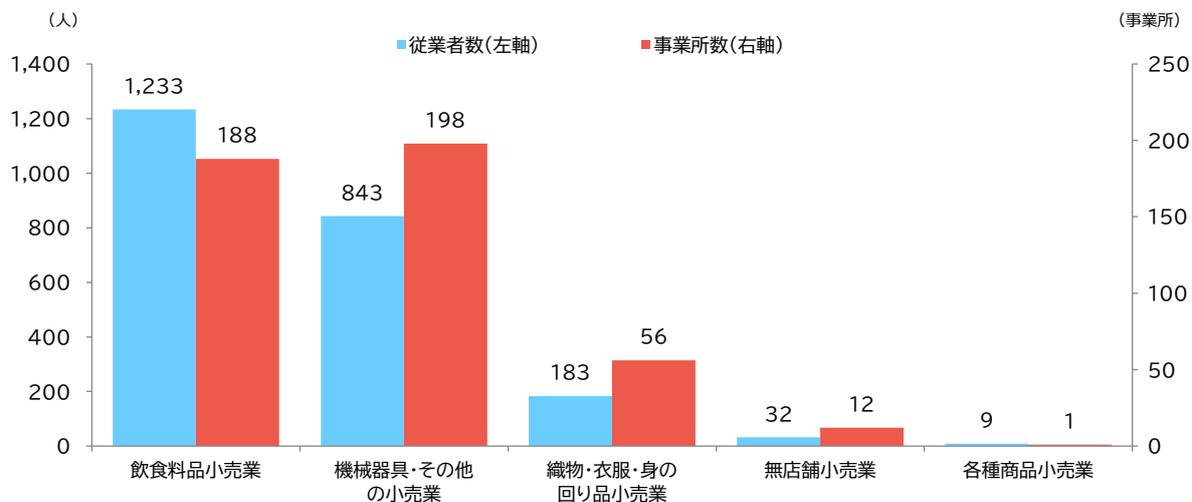
<出典>地域経済分析システム (RESAS)

②従業者数と事業所数

小売業の中分類では、従業者数は「飲食料品小売業」が最も多く、次いで「機械器具・その他の小売業」が多い状況となっています。

また、事業所数では、「機械器具・その他の小売業」が最も多く、次いで「飲食料品小売業」が多い状況となっています。

図55 小売業の中分類別従業者数・事業所数【2016年】

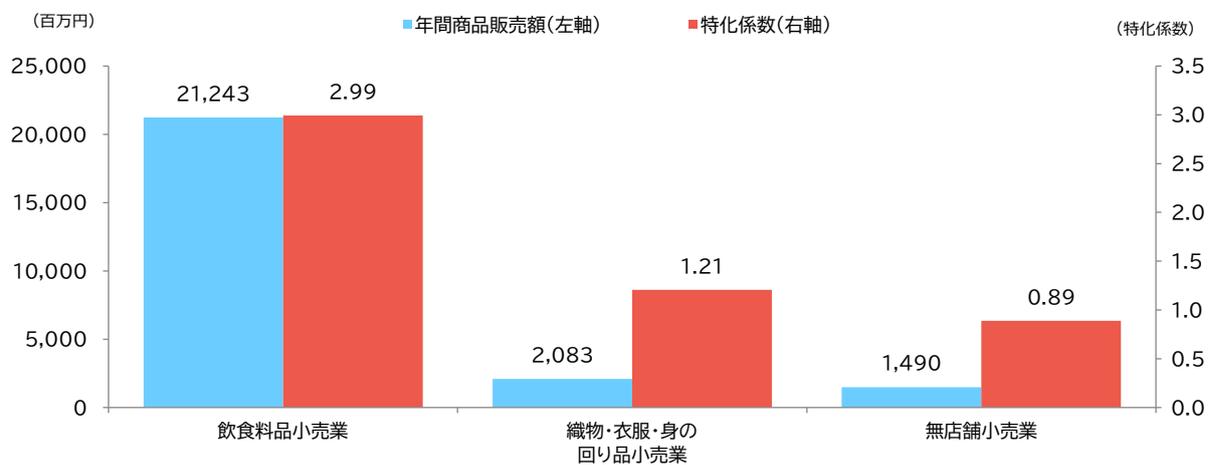


<出典>地域経済分析システム (RESAS)

③年間商品販売額

小売業の中分類における年間商品販売額については、「飲食料品小売業」が最も多い状況となっており、特化係数が2.99と全国と比較し高い値を示しています。

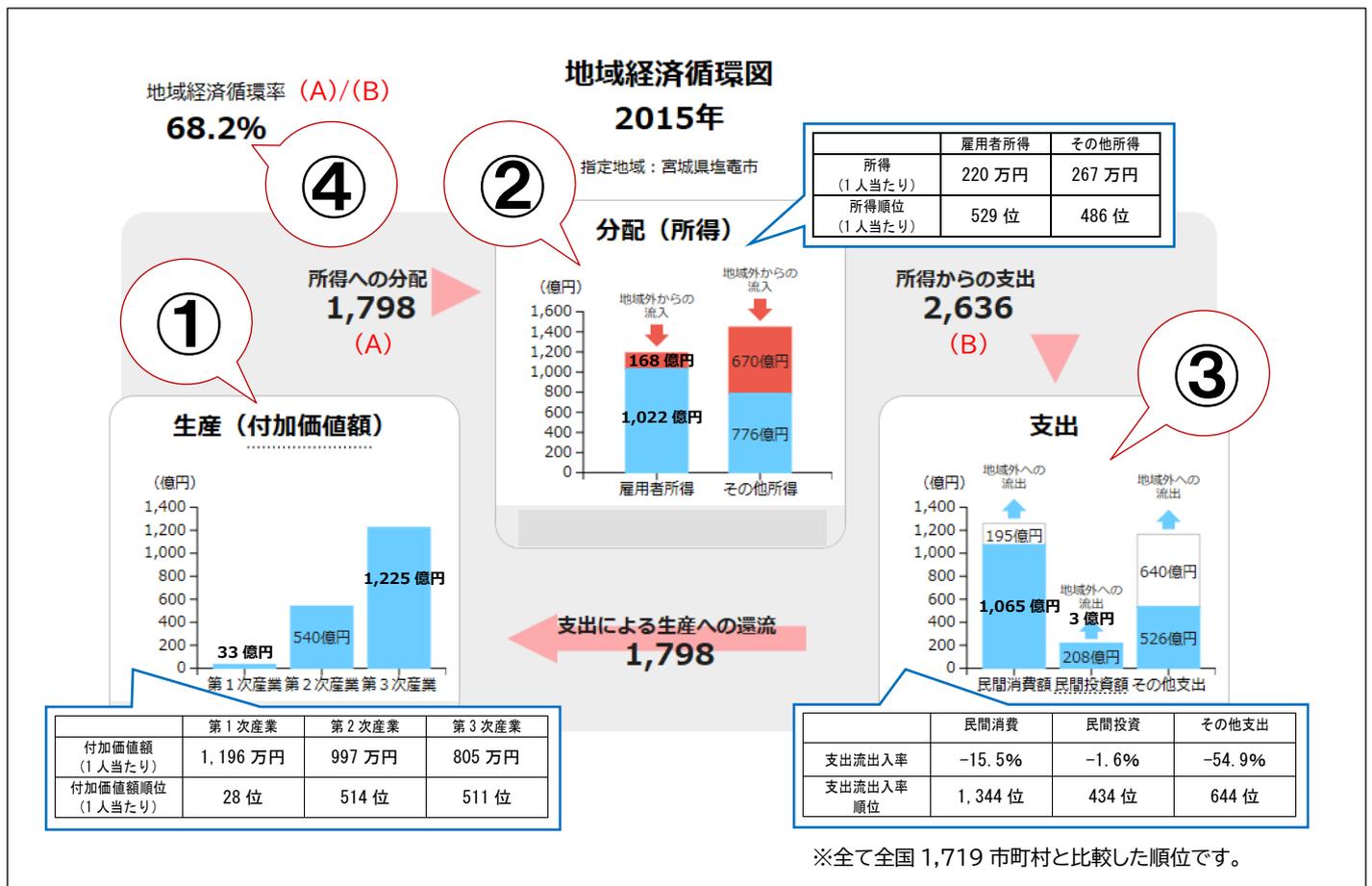
図56 小売業の年間商品販売額【2016】



8) 地域経済循環図からみる経済循環の状況

地域経済循環図は、地域が生み出した利益を表す「生産（付加価値額）」、地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたかを表す「分配（所得）」、分配された所得がどのように使われたかを表す「支出」の3つの経済活動を確認できるものです。また、地域外へのお金の流出や、地域外からのお金の流入も把握できます。

図57 地域経済循環図



【地域経済循環図から見る本市の特徴】

- ① 第1次・第2次・第3次産業で合計 1,798 億円の付加価値が生み出されています。特に第1次産業での1人当たりの付加価値額が全国でも上位となっています。
- ② 生み出された付加価値は、所得として分配されます。雇用者所得・其他所得とも全国平均よりも上位となっており、其他所得において、地域外からの流入した所得の割合が高い結果となっています。
- ③ 支出においては、民間消費の支出流出率順位で全国と比較し下位となっており、市内での消費を促す取組が必要と考えられます。また、其他支出において地域外へ流出している割合が高くなっています。
- ④ 地域経済循環率は 68.2%と100%を下回っており、他地域から流入する所得に対する依存度が高い傾向となっています。なお、地域経済循環率は値が高いか低いかで地域を評価するものではありません。(※参考 仙台市 105.0%、多賀城市 55.6%、名取市 67.3%、岩沼市 89.6%、富谷市 102.2%)

4 本市が抱える重点課題の解決に向けた取組

1) 重点課題について

現在本市では、産業や浦戸の再生に向けた取組、本庁舎や教育施設をはじめとした公共施設の今後のあり方など、財政状況が厳しさを増す中、早期に解決しなければならない7つの重点課題への対応に向けた検討を進めています。

重点課題検討本部および検討部会を設置し、令和2年度中に課題解決に向けた方向性を取りまとめることとし、長期的な対応を要するものについては、その方向性について第6次長期総合計画へも反映させるものです。

2) 重点課題ごとの検討内容について

部会名	検討内容
① 庁舎整備検討部会	新庁舎整備について
② 市立病院のあり方検討部会	地域医療における市立病院の今後のあり方について
③ 学校再編検討部会	学校施設のあり方及び再編について
④ ごみ処理事業検討部会	ごみ処理の広域化および老朽化した清掃工場・埋立処分場のあり方について
⑤ 門前町再生検討部会	ハード・ソフト両面による門前町の再生策について
⑥ 産業創出再生検討部会	新しい産業の創出と水産業・水産加工業等基幹産業の再生策について
⑦ 浦戸の再生検討部会	浦戸の再生について（浦戸再生プロジェクト設立に向けた検討）